シンポジウム

# 古代の北近畿

## －若狭湾岸の古代－

## 資料集

日時／１９９５年３月２５日（土）
会場／小浜市文化会館
後援／小浜市教育委員会

１９９５

福井県立若狭歴史民俗資料館

# シンポジウム　「古代の北近畿」　－若狭湾岸の古代－

## 日　　程

9：00～ 9：30　受　付
9：30～ 9：40　開会挨拶
9：40～10：20　基調報告「北近畿の首長墳とその動向」
　　福井県立若狭歴史民俗資料館副館長　中司照世
10：20～11：00　基調講演「北近畿と畿内の小型墳」
　　立命館大学文学部教授　和田晴吾
11：00～11：10　休　憩
11：10～11：50　基調講演「古墳からみた北近畿と畿内」
　　国立歴史民俗博物館教授　白石太一郎
11：50～13：00　昼　食
13：00～13：40　基調講演「古代の国家形成と北近畿」
　　立命館大学文学部教授　山尾幸久
13：40～13：50　休　憩
13：50～15：20　シンポジウム
　　コーディネーター　和田晴吾
　　パネラー　山尾幸久
　　白石太一郎
　　中司照世
15：20～15：30　閉会挨拶

## 資料集目次


頁

基調報告
北近畿の首長墳とその動向　中司照世…… 1

基調講演1
北近畿と畿内の小型墳　和田晴吾…… 12

基調講演2
古墳からみた北近畿と畿内　白石太一郎…… 15

基調講演3
古代の国家形成と北近畿　山尾幸久…… 一

# 北近畿の首長墳とその動向

中　司　照　世

## 1．はじめに

福井県立若狭歴史民俗資料館では，平成3年度に継続事業である「若狭地方の主要前方後円墳総合調査」に着手，以来当地方の主要古墳の範囲確認調査を実施してきた。この調査は，主に全長が70～100mの若狭地方の大首長墳の，正確な墳丘規模や周濠の範囲を確定するためのものである。発掘によって，それぞれの大首長墳の各部分の規模のみならず，出土した埴輪から従来不明であった2，3の古墳の築造時期もほぼ明らかになった。よって，これまで墳形や立地，あるいはごく少数の採集された埴輪片から推定されていた各大首長墳の築造順序も明確になり，従来の説に修正を加えることができた。また，歴代の大首長の勢威の盛衰等，動静もある程度推測しうるようになった。

一方，資料館は，昭和57年の開館後10年が経過し，常設展示がしだいに飽きられるようになった。そこで，展示改善事業，いわゆるリニューアルを計画した。この展示改善の古墳時代の新しい展示では，若狭湾岸の首長墳の分布やそれぞれの政治的範囲等をパネルで示すことを企画した。

ところで，若狭湾岸の首長層の動向について究明しようとする場合，避けて通れないものに，京都府の平良泰久氏による，丹後勢力の衰退に連動する若狭ならびに但馬の勢力の興隆，丹後からの分立を推定する説がある。つまり，若狭の首長層の動向について言及するためには，平良説に触れないわけにはいかない。よって，その当否を確認するため，丹後・丹波・但馬などの円墳や方墳をも含む首長墳の踏査を実施した。その結果，平良氏とは異なる結論に至った。

ここでは，踏査の結果や，それから推論しうる首長層の動向について，若狭をも含めて北近畿と総称して報告し，講師の先生方あるいは来場の皆様方などからのご批判を仰ごうと思う。なお，踏査による観察結果はもちろんのこと，それぞれの古墳の調査事実の報告内容自体に関しても，調査者である京都府あるいは兵庫県の研究者の方々の従来の見解とは異なるところがある。あるいは礼に欠ける点もあるかもしないが，ご寛容頂きたい。

## 2．既往の研究

既往の研究は，丹後・丹波に関する主なものにとどめる。

さて，丹後の古墳に関する広域にわたる論及は，同志社大学考古学研究会の報告をもって嚆矢となす。同研究会では，昭和37年以来丹後の古墳の分布調査ならびに測量調査を実施し，特に蛭子山（えびすやま）・網野銚子山・神明山（しんめいやま）の大規模古墳を，丹後半島内の各単一水系をそれぞれ存立基盤とするのみならず，丹後全域を基盤として成立したものと推定した。

その後平良氏は，同一土器圏であることや，「但馬と若狭に大王墓型古墳が成立する時期と丹後の巨大古墳が消滅する時期とが交代する」として，「これを不可分の現象とみてよければ丹後勢力を盟主とする地方国家タンバを想定できるのではなかろうか」と推測した。すなわち，丹後の巨大古墳の被葬者は「丹後を存在基盤とするにとどまらず，丹波（北部）・但馬・若狭をも含む広範な地域を代表するタンバの王であった」と結論づけた。

そのほか，丹波の首長の動静を検討した奥村清一郎氏は，丹後国分置（和銅6年）後の丹波国域に相当する地方に南北の二大地域圏を想定し，西丹波（篠山・氷上（ひかみ）両盆地等）と南丹波（亀岡盆地等）は「5世紀に至って統合され，丹波の南部一帯を支配するひとつの強力な地域権力が誕生し」，その初代の首長こそ雲部（くもべ）車塚古墳の被葬者にほかならず，そのあとをうけた首長が千歳車塚古墳の被葬者であったろうと推測している。ただ，後年同氏は，中期におけるこの地域政権の成立は，北丹波（福知山・綾部両盆地等）をも含めた丹波のほぼ全域を領域としたもの，と考えを改めている。

## 3．各地方の古墳

次に報告に移る。ただ，その前に2，3断っておきたい。本日おいで頂いた白石・和田両先生を初めとする諸先生方からは，日頃から考古学的に色々ご教授頂いているが，以下に述べることに関して多少考え方に異なる点がある。

（1）　まず，何をもって古墳と考えるかということであるが，第3表のように京都府園部町黒田古墳や同綾部市青野西ＳＸ49号墳を，筆者は古墳とみなしている。一般に，前者は前方後円形の墳丘墓と考えられ，後者は前方後方形周溝墓とみなされている。

　確かに，最古の古墳といわれている，奈良県桜井市の箸墓古墳より以前に古墳と呼ぶべきものが存在するか否か，将来の調査を待って決定すべきである。しかし，従来広範な各地で首長を含む有力者層が築き続けてきた方形周溝墓ではなく，首長のみが前方後円形や前方後方形という，集団内の他の有力者とは明確に異なる墳形の墓を築き始めたということは，首長が墳形の上にも自己の存在を誇示しうるだけの社会的背景が広く確立された証拠とみる。

（2）　6世紀（後期）には，大首長は存在しないという考えも提起されている。しかし，むしろその逆で，それまでの4・5世紀の首長制が，6世紀にはより一層整備されたものと考える（後述の1地方（国）－1大首長，1郡域－1系列首長――律令的首長制の胎動）。

（3）　4・5世紀には，主要古墳は墳丘を3段に築く「3段築成」であったが，6世紀には3段

築成はなくなるという見解が出されている。しかし，6世紀以後も依然として3段築成は造営されていると考える。ただ，それ以前より一層限定された特定の人々にのみ使用されたに過ぎないと思う。ちなみに，畿内を除けば，一般に考えられている以上に3段築成の古墳の数はきわめて僅少である。なお，北近畿の顕著な古墳の被葬者の背景を推定するために，外部設備(とりわけ段築数）の有無を重視して列記する。

さらに，各地方ごとに主要古墳について説明するにあたっては，大・中型の円墳や方墳も首長墳には混在するので，これらも俎上に乗せるべきかも知れない。しかし，今回の趣旨は，若狭・丹後・丹波・但馬の各地方の大首長の動静を探り，この4地方が古墳時代にどのようにかかわりながら消長したかということにある。そこで，前方後円墳（方）や帆立貝形古墳などを主に列挙し，円・方墳については，補足的に説明するにとどめたい。

また，第1図～第4図では，横穴式石室の内蔵が明白であるか，あるいはその他なんらかの根拠により後期に属す可能性が高い例のみを後期古墳として黒塗りで表示し，従来立地や墳形などから後期と推定されているけれども，その当否になお懸念の残る例については前～中期古墳と同様に白抜きで表示する。後期でも前方部が後円部より低平で，かつ幅も狭く，しばしば中期以前の古墳と誤認される例が混在することは，周知のとおりである。

なお，各首長墳で，墳形・規模，外部設備の存否に関して，見解の差が生じている場合が少なくない。以下列挙する各古墳の記述のうち，既報告のいずれとも異なる箇所は，今回の筆者の観察・略測の結果を記したものである。そうして，築造時期の推定説が存在する例については，列記しておく。

a．若狭の前方後円（方）墳

若狭の前方後円（方）墳は第1表・第1図のとおりである。

b．丹後の前方後円墳

丹後では，特に付言しておかねばならないが，既往の主な報告において，前方後円墳の総基数に顕著な差がある。たとえば，『京都府遺跡地図』では63基，『前方後円墳集成』では11基と記す。筆者が今回の踏査で確認し得た総数は，31基である。

丹後の前方後円（方）墳は第2表・第2図のとおりである。

c．丹波の前方後円（方）墳

丹波の前方後円（方）墳は第3表・第3図のとおりである。

d．但馬の前方後円（方）墳

但馬の前方後円（方）墳は第4表・第4図のとおりである。

## 4．古墳から推測される首長層の動向

まず各地方の大首長墳を特定するのに，規模の参考例として大首長墳の比較的明白な越前・能登の例を示すと，第5・6表のとおりである。また，段築・葺石・埴輪などの外部設備をそなえる古墳がいかに少なく，かつ，被葬者の勢威を端的に示すかということを，北近畿の周辺部における首長墳をも含めて表示すると，第5～10表のとおりである。

a．若狭の大首長墳

したがって，若狭における大首長墳とその変遷は，第11表のようになろう。

b．丹後・丹波・但馬の大首長墳

丹後・丹波・但馬における大首長墳は，第12表の網掛けの諸古墳となる。古墳時代中期の初めまでは，丹後と但馬を含む丹波とに2分立していたが（表中の縦の太罫で区分），その後大首長は但馬あるいは丹波から順次輩出したことになる。後半期の大首長の統括した範囲は，やや異色な広さとなるが，但馬から丹後まで及ぶものと考えざるをえない。

参考までに，丹後・丹波・但馬において，埴輪から中期と特定しうる大首長墳の先後関係を明示するために，墳形の変化を第13表に示した。

## 5．丹後・丹波・但馬における広域政治圏

以上のように，丹後から但馬におよぶ広域政治圏の成立を推定したが，その可否の傍証として以下の諸点を列挙しておく。

(1) 律令期に同じ「丹波国」となっている地方において，南丹波と北丹波とを2分割する積極的理由が見い出しがたい。

(2) この広域政治圏内においても，丹後で丹後型埴輪，地元産の石材を使用した舟形石棺・長持形石棺，但馬で竜山石の長持形石棺(雲部車塚古墳の例がそうならば丹波も）や豊岡市周辺部の地元産の石材(陰石）を使用した石棺など，地域的特色が現れているが，舞鶴市周辺部を東限として箱形石棺も広く散在する。

(3) 同様に，きわめて広い広域圏の存立した地方として，信濃がある。信濃は伊那谷地方の南信，松本盆地の中信，佐久・小諸盆地などの東信，更埴（善光寺平）～飯山市などの北信の，主に4地方からなる。筆者は，松本盆地（弘法山古墳）→善光寺平（森将軍塚・川柳将軍塚・土口将軍塚・倉科将軍塚各古墳など）→伊那谷(塚原二子塚・御猿堂・飯沼雲彩寺・高岡１号各古墳など)と大首長墳が推移したのではないか，と推定している。ちなみに，信濃の飯田市－飯山市間は南北約160kmにおよび（亀岡市－浜坂町間は約130km），弥生時代後期には伊那谷地方・諏訪盆地から甲府盆地にかけての地方・千曲川流域と，地域色をもつ土器圏が鼎立していたことが明らかになっている。ゆえに，弥生時代後期の土器圏が，そのまま古墳時代の政治圏に相当すると

は限らない。

(4) 古墳時代後期には，1地方(多くの場合律令制の国域に相当)に1系列の大首長墳(大型前型後円墳）が築かれ，1郡域(多くの場合律令制の郡域に相当）に1系列の首長墳（小型前型後円墳）が築かれた地方が多いことを指摘しうる。なお，大首長墳の周辺部には，複数の系列の首長墳が群集する。

こうした現象を越前を例に示すと，第14表・第5図のとおりである。

若狭・丹後～但馬における地方でも，第15～18表のとおり，こうした傾向を指摘しうる。

丹後～但馬における広域政治圏では，千歳車塚・長塚・小盛山の各古墳が大首長墳に相当するならば，その周辺部に群集する複数の系列の首長墳に福知山・篠山両盆地の小型前型後円墳群が相当することになる。

(5) 後期後半以降，丹波に坊田1号墳（方墳，辺長約22m），洞中1号墳（円墳，復原径約30m）などが存在する以外，丹波・丹後ではさほど顕著な古墳をみない。しかし，但馬では，堀畑1号墳（円墳，径約30m），禁裡塚古墳（円墳，径約34m），塚山古墳(円墳，径約36m，墳丘下に方形基台部をもつ），コウモリ塚古墳（方墳，復原辺長約35mか）など，段築(2段)・葺石をそなえた主要古墳が集中している。和田山町に近接し，同様に交通の要衝である養父町を中心とした，こうした但馬に顕在する特徴は，あたかも前代からの在地勢力の勢威の隆盛の継続を窺わせるかのようで，きわめて示唆的である。

(6) 平良氏の指摘にもあるが，丹波では塩谷5号墳・塚本古墳（半鐘塚1号墳もか），但馬では観音塚古墳など，丹波・但馬では須恵器編年のＴＫ47型式期までⅣ期の埴輪が継続して使用されている。さらに，丹波の稲葉山10号墳，丹後の太田2号墳では，Ⅴ期の埴輪にともに方形スカシの遺存をみる。

## 6．若狭と丹後～但馬との別地域圏

最後に，若狭が丹後～但馬とは別な地域圏を形成していた，傍証とみなしうる諸点を列挙すれば，次のとおりである。

(1) 律令期には，丹後国は当初丹波国に含まれており，丹後国として分国後5郡，丹波国は丹後国分置後6郡で構成される。ところが，大飯郡分置後でもわずか3郡に過ぎない若狭国は初めから別な国として成立しているが，それまで歴史的に地域的一体性が存在しなかった証ではないか。

(2) (1)や前節の(2)とも関連するが，丹後～但馬に顕著な各種の石棺や石枕の散在とは異なり，高浜町以東の若狭では箱形石棺の確認例すら見ない。既に指摘されているとおり，埋葬設備はきわめて保守的で地域色に富んでいる。ゆえに，前期に丹後の大首長が丹後のみならず若狭をも基盤にしていたとする想定には，こうした点は不利といわざるをえない。

(3) 前期の丹後に，全長200m前後という日本海側でも突出した規模の巨大古墳が存在することが，丹後の大首長による若狭・丹波北部・但馬をも含む広域政治圏の成立を想定する理由の一半となったわけである。しかし，大首長墳の巨大さは，基盤とする地域の広さをそのまま反映するものではなく，『記・紀』に伝える「竹野比売（旦波大県主由碁理女）」，「丹波比古多多須美知能宇斯王」，「（丹波）河上摩須郎女」，「比婆須比売命」，「竹野別」など，大王や大王妃に関連する伝承に由来するものではないかと思う。網野銚子山・神明山両古墳の規模が大和盆地北部の佐紀古墳群の巨大古墳に近似し，網野銚子山古墳と佐紀陵山古墳(伝 日葉酸媛命陵古墳）の墳形が酷似しており，神明山古墳に北接して竹野神社が存在すること，などは無視しがたい。網野銚子山・神明山両古墳は蛭子山古墳とともに畿外では数少ない3段築成の古墳であるが，畿内周辺部における3段築成の古墳と，なんらかの形で大王に関連する伝承などを有する古墳を第19表に表示した（すなわち，3段築成の古墳とその規模とが必ずしも符合しないので（第19・20表参照），地方における3段築成の古墳の被葬者に，大王家一族となんらかの濃厚な関係を有したか，あるいは政権中枢に接近，なんらかの形で政権の運営に参画した，などの可能性を考えようというわけである）。

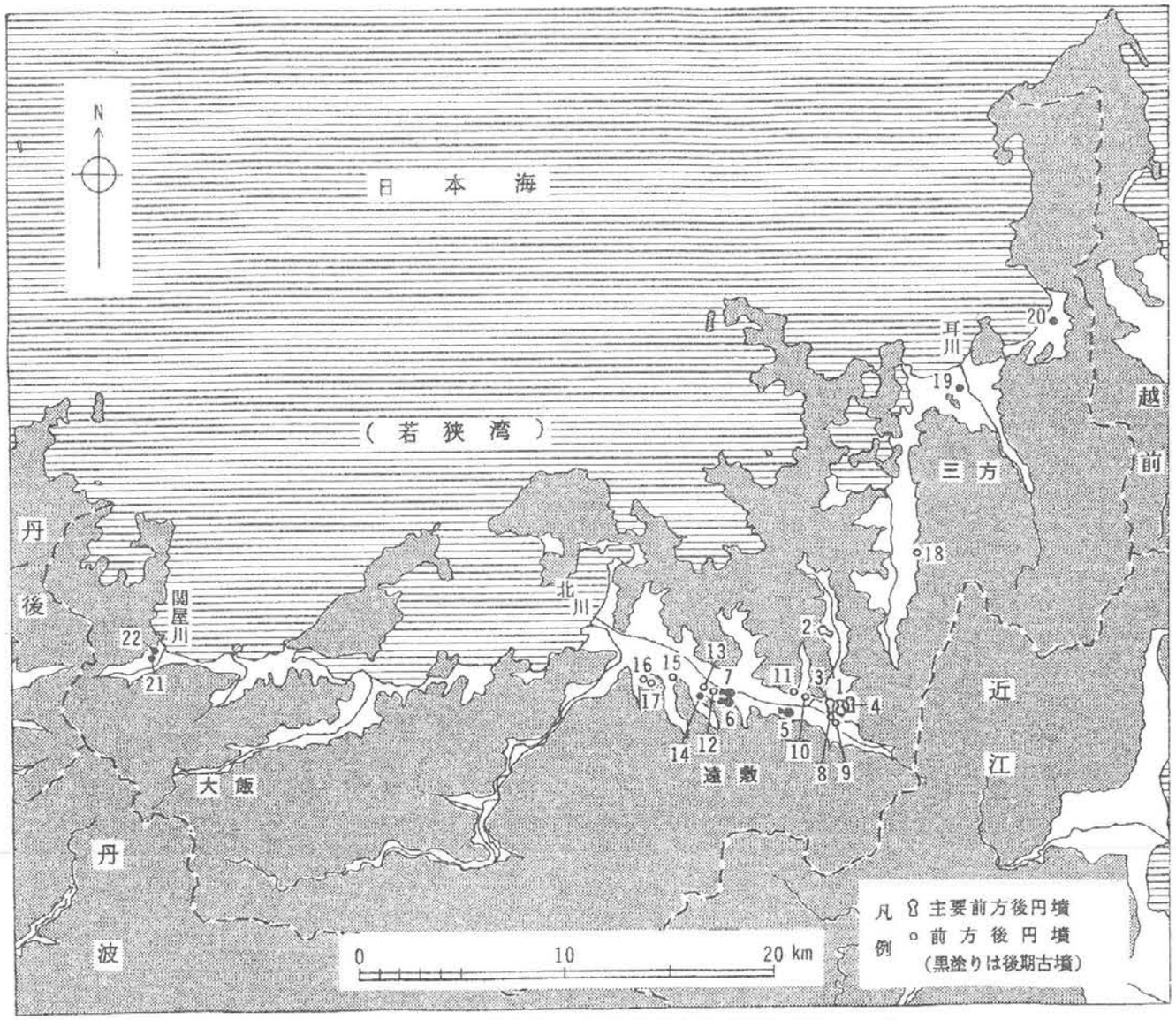
第1表　若狭における前方後円（方）墳一覧表

| 番号 | 古墳名 | 墳形 | 全長(m) | 外部設備 | | | | 埋葬設備 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 主要出土品 | | | | | | | 築造時期 |
| 1 | 上ノ塚 | 前方後円 | 約100 | 周濠 | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 4世紀末～5世紀前葉 |
| 2 | 城山 | 前方後円 | 約 63 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | (未詳) |
| | 須恵器 | | | | | | | 5世紀前半 |
| 3 | 西塚 | 前方後円 | 約 74 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 竪穴系横口式石室？ |
| | 舶載神人画像鏡・仿製四獣鏡・金垂飾付耳飾・ガラス勾玉・金銅鈴付帯金具・銀鈴・銅鈴・眉庇付冑・短甲・須恵器ほか | | | | | | | 5世紀後葉 |
| 4 | 中塚 | 前方後円 | 73(復)? | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 5世紀後葉 |
| 5 | 十善ノ森 | 前方後円 | 約 67 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | 横穴式石室(2) |
| | 舶載方格規矩四神鏡・金銅冠帽・ガラス勾玉・トンボ玉・銀空玉・金銅三輪玉・銀被捩文環頭大刀・金銅胡禄金具・同馬具類・漆器ほか | | | | | | | 5世紀末～6世紀初頭 |
| 6 | 上船塚 | 前方後円 | 約 70 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 6世紀前半 |
| 7 | 下船塚 | 前方後円 | 約 85 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | (未詳) |
| | 須恵器 | | | | | | | 6世紀中葉 |
| 8 | 糠塚 | 前方後円? | 40～70前? | 周濠？ | (未詳) | (未詳) | 埴輪(時期未詳) | (未詳) |
| | (伝)須恵器 | | | | | | | 5～6世紀 |
| 9 | 上下之森 | 前方後円? | 約54? | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | (未詳) |
| | (伝)鏡・鉄刀剣 | | | | | | | 5世紀後半 |
| 10 | 向山1号 | 前方後円 | 約 49 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 横穴式石室 |
| | 仿製内行花文鏡・金垂飾付耳飾・短甲・三輪玉形ガラス玉・ガラス連玉・ガラス小玉・革楯，須恵器ほか | | | | | | | 5世紀中葉 |
| 11 | 南北山 | 前方後円 | 約 30 | —— | —— | (未詳) | (未詳) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | (未詳) |
| 12 | 白鬚神社 | 前方後円 | 約 43 | 墓台部? | —— | (未詳) | 埴輪(時期未詳) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | (未詳) |
| 13 | 鷺塚(太興寺1号) | 前方後円 | 約 40 | 周濠？ | (不詳) | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期？) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 5世紀後半？ |
| 14 | 太興寺天神山21号 | 前方後円 | 約 13 | —— | —— | —— | —— | 割竹形木棺 |
| | 須恵器 | | | | | | | 5世紀末～6世紀初頭 |
| 15 | 国分 | 前方後円? | 40余? | 周濠？ | (未詳) | (未詳) | 埴輪(Ⅳ～Ⅴ期) | (未詳) |
| | 舶載画文帯仏獣鏡 | | | | | | | 5世紀後半～6世紀前半 |
| 16 | 多田山上 | 前方後円 | 約 35 | —— | —— | (未詳) | (未詳) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | (未詳) |
| 17 | 九花峰 | 前方後円 | 約 49 | —— | —— | (未詳) | (未詳) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | (未詳) |
| 18 | 松尾谷 | 前方後方 | 約 40 | —— | (不詳) | (不詳) | —— | 割竹形木棺(3) |
| | 管玉・鉄槍・鉄鉈，土師器 | | | | | | | 4世紀前半 |
| 19 | 獅子塚 | 前方後円 | 約 32 | 周濠 | (未詳) | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | 横穴式石室 |
| | 勾玉(ヒスイ・水晶)・管玉・ガラス小玉・鉄剣・鉄鏃・環鈴・須恵器 | | | | | | | 6世紀前葉 |
| 20 | 帝釈寺4号 | 円(前方部?) | 20(30余?) | 周濠 | (不詳) | —— | 埴輪(Ⅴ期) | (未詳) |
| | 須恵器 | | | | | | | 6世紀前半 |
| 21 | 二子山3号 | 前方後円 | 約 26 | —— | —— | —— | —— | 横穴式石室 |
| | 勾玉・管玉・ガラス小玉・鉄刀・鉄鏃・鉄鎌・馬具類・須恵器ほか | | | | | | | 6世紀前葉 |
| 22 | 行峠 | 前方後円 | 約 34 | —— | —— | —— | —— | 横穴式石室 |
| | 切子玉・管玉・鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・鉄鎌・鉄斧・馬具類・須恵器ほか | | | | | | | 6世紀中葉 |

（そのほか，太興寺松塚(太興寺2号)古墳も前方後円墳の可能性が強い）


主要参考文献（五十音順）

入江文敏・森川昌和 1981 「獅子塚古墳」（『探訪日本の古墳』東日本編）。
入江文敏 1992 「若狭」（『前方後円墳集成』中部編）。
小浜市教育委員会 1992 『太興寺天神山21・22号墳発掘調査現地説明会資料』。
上中町教育委員会 1988 『向山古墳群第二次調査現地説明会資料』。
上中町教育委員会 1991 『日笠地区圃場整備事業に伴う発掘調査報告』。
斎藤 優 1970 『若狭上中町の古墳』。

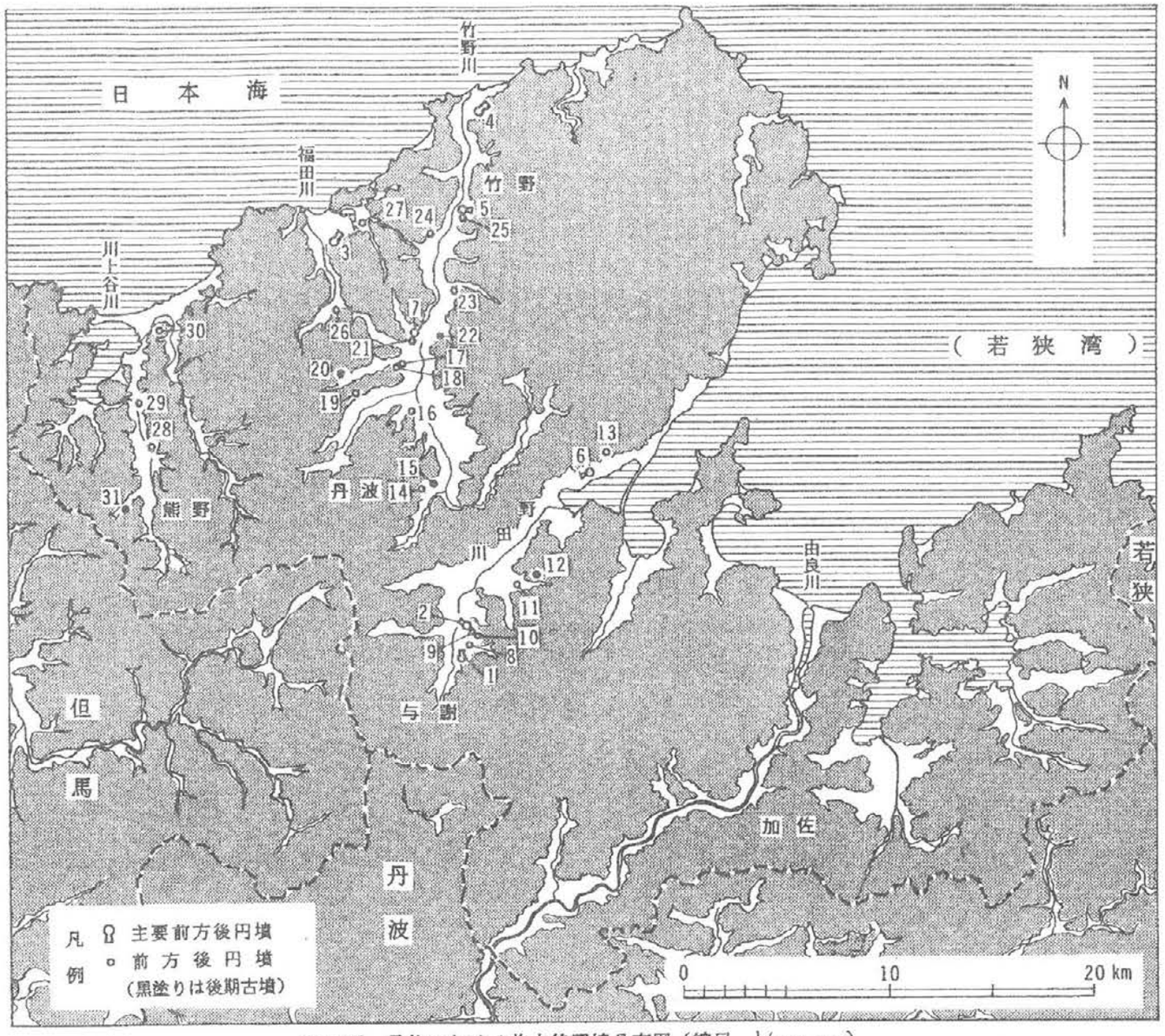

第1図　若狭における前方後円（方）墳分布図（縮尺 1/300,000）

1 上ノ塚古墳，2 城山古墳，3 西塚古墳，4 中塚古墳，5 十善ノ森古墳，6 上船塚古墳，7 下船塚古墳，8 糠塚古墳，9 上下之森古墳，10 向山1号墳，11 南北山古墳，12 白鬚神社古墳，13 鷺塚古墳，14 太興寺天神山21号墳，15 国分古墳，16 多田山上古墳，17 九花峰古墳，18 松尾谷古墳，19 獅子塚古墳，20 帝釈寺4号墳，21 二子山3号墳，22 行峠古墳


高浜町教育委員会 1989 『二子山3号墳発掘調査現地説明会資料』。
高浜町教育委員会 1991 『行峠古墳発掘調査現地説明会資料』。
田辺常博ほか 1990 『三方町史』。
中司照世 1990 「3 北陸」（『古墳時代の研究』11）。
中司照世 1992 「日本海中部の古墳文化」（『新版 古代の日本』7 中部）。
中司照世 1993 「主要古墳踏査余話」（『福井考古学会会報』第36・37号）。
中司照世 1994 「若狭・北陸のはにわ」（『はにわの成立と展開』第2回加悦町文化財シンポジウム）。
福井県内務部 1920 『福井県史蹟勝地調査報告』第1冊。
福井県立若狭歴史民俗資料館 1991 『躍動する若狭の王者たち』。
福井県立若狭歴史民俗資料館 1992 『若狭歴民だより』創刊号。
福井県立若狭歴史民俗資料館 1993 『若狭歴民だより』第3号。
福井県立若狭歴史民俗資料館・立命館大学文学部 1993 『城山古墳発掘調査現地説明会資料』。
森川昌和 1992 「古墳時代」（『小浜市史』通史編 上巻）。

第2表　丹後における前方後円墳一覧表

| 番号 | 古墳名 | 墳形 | 径(m) | 外部設備 | | | | 埋葬設備 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 主要出土品 | | | | | | | 築造時期 |
| 1 | 白米山1号 | 前方後円 | 約 92 | —— | 2段 | 葺石 | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀前半 |
| 2 | 蛭子山1号 | 前方後円 | 約145 | —— | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | 舟形石棺・竪穴式石槨 |
| | 舶載内行花文鏡・鉄刀剣・鉄槍，土師器 | | | | | | | 4世紀中葉 |
| 3 | 網野銚子山 | 前方後円 | 約198 | —— | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀後半 |
| 4 | 神明山 | 前方後円 | 約190 | —— | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | (未　詳) |
| | 滑石小型丸底壺・同盒・同椅子，土師器 | | | | | | | 4世紀後半 |
| 5 | 黒部銚子山 | 前方後円 | 約100 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀後葉～5世紀前葉 |
| 6 | 法王寺 | 前方後円 | 74(~80) | —— | 2(3)段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | 長持形石棺 |
| | 石枕，(伝)銅鏡・鉄刀剣 | | | | | | | 4世紀後半 |
| 7 | 湧田山1号 | 帆立貝 | 約106 | —— | 2段 | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀後葉～5世紀中葉 |
| 8 | 後野円山1号 | 帆立貝 | 約 35 | 周溝 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 5世紀後半 |
| 9 | 作山1号 | 帆立貝 | 約 36 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | 箱形石棺 |
| | 仿製四獣鏡・石釧・勾玉・管玉・ガラス小玉・鉄剣・刀子・鉄斧・鉄鏃 | | | | | | | 4世紀中葉 |
| 10 | 作山4号 | 前方後円 | 約 30 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) | 箱形石棺？ |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀後葉～5世紀前葉 |
| 11 | 石川丸山 | 帆立貝 | 約 34 | 周濠？ | (未詳) | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 12 | タベカニ4号 | 前方後円？ | 30 程度 | —— | (未詳) | (未詳) | 埴輪(Ⅴ期) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 6世紀 |
| 13 | 国分寺裏山3号 | 前方後円 | 56 以上 | —— | (未詳) | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 14 | 小茂谷2号 | 前方後円 | 約 18 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 15 | 新戸1号 | 前方後円 | 約 36 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 |
| | 金環・勾玉・切子玉・管玉・馬具類 | | | | | | | 6世紀後半 |
| 16 | 盗人神6号 | 前方後円 | 約 19 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 17 | 八幡山1号 | 前方後円 | 約 52 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 18 | 八幡山3号 | 前方後円 | 約 40 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 5世紀前半 |
| 19 | 下和田9号 | 前方後円 | 約 34 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 20 | がんじあん2号 | 前方後円 | 約 30 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 |
| | (未　詳) | | | | | | | 6世紀 |
| 21 | 湧田山3号 | 前方後円 | 約 39 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 22 | スクモ塚3号 | 前方後円 | 約 19 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 23 | 小田屋6号 | 帆立貝 | 約 24 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 24 | 桑田2号 | 前方後円 | 約 24 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 25 | 弓ノ木1号 | 前方後円 | 約 50 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 26 | スガ町3号 | 帆立貝 | 約 21 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 27 | 谷崎21号 | 前方後円 | 約 18 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |
| 28 | 島茶臼山 | 前方後円 | 約 39 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀後半 |
| 29 | 甲山岩ケ鼻 | 前方後円 | 約 41 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | 4世紀後葉～5世紀前葉 |
| 30 | ドウブン1号 | 前方後円 | 約 24 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| | (未　詳) | | | | | | | (未　詳) |




第2図　丹後における前方後円墳分布図（縮尺 1/300,000）

1 白米山1号墳，2 蛭子山1号墳，3 網野銚子山古墳，4 神明山古墳，5 黒部銚子山古墳，6 法王寺古墳，7 湧田山1号墳，8 後野円山1号墳，9 作山1号墳，10 作山4号墳，11 石川丸山古墳，12 タベカニ4号墳，13 国分寺裏山3号墳，14 小茂谷2号墳，15 新戸1号墳，16 盗人神6号墳，17 八幡山1号墳，18 八幡山3号墳，19 下和田9号墳，20 がんじあん2号墳，21 湧田山3号墳，22 スクモ塚3号墳，23 小田屋6号墳，24 桑田2号墳，25 弓ノ木1号墳，26 スガ町3号墳，27 谷崎21号墳，28 島茶臼山古墳，29 岩ケ鼻古墳，30 ドウブン1号墳，31 須田平野古墳

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 須田平野 | 前方後円 | 約 26 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 |
| | (未　詳) | | | | | | | 6世紀中葉 |

（推定築造時期の明示例は，下記の参考文献の記載に従っており，第2図の時期表示とは必ずしも合致しない）

主要参考文献（五十音順）

網野町教育委員会 1987『銚子山古墳・小銚子古墳発掘調査概要』。
大宮町教育委員会 1979『養陰遺跡発掘調査概報』。
加悦町教育委員会 1992『加悦町の古墳』。
京都府教育委員会 1970「法王寺・岩滝丸山両古墳発掘調査概要」（『埋蔵文化財発掘調査概報』）。
京都府教育委員会 1988『京都府遺跡地図』第1分冊。
佐藤晃一 1992「丹後」（『前方後円墳集成』近畿編）。
佐藤晃一 1993「考古学からみた加悦谷の前半期古墳時代」（『蛭子山古墳の時代』）。
平良泰久 1983「国家形成期の日本海」（『歴史公論』第9巻第3号）。
平良泰久・久保哲正・奥村清一郎 1986『日本の古代遺跡』27 京都Ⅰ。
広瀬和雄ほか 1973『同志社考古』10号。

第3表　丹波における前方後円（方）墳一覧表

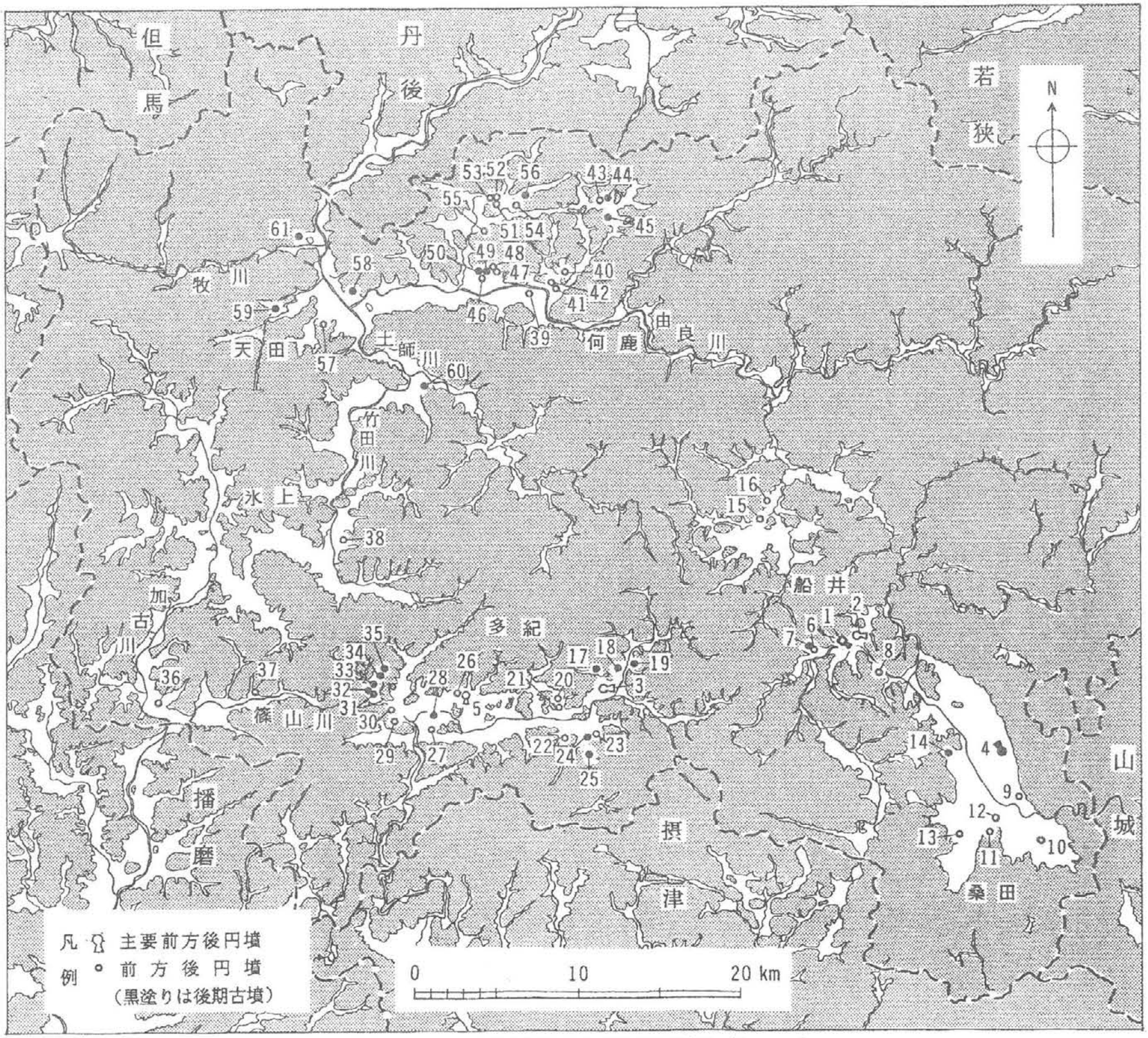
| 番号 | 古墳名 | 墳形 | 全長(m) | 外部設備 | | | | 埋葬設備 | 主要出土品 | 築造時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中　畷 | 前方後方 | 84 余 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | (未　詳) | (伝)筒形銅器・鉄刀 | (未　詳) |
| 2 | 垣　内 | 前方後円 | 約 82 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) | 粘土槨 | 舶載三角縁神獣鏡・同三角縁仏獣鏡・車輪石・石釧・玉類・銅鏃ほか | 4世紀後半 |
| 3 | 雲部 車塚 | 前方後円 | 約140 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 竪穴式石槨(長持形石棺) | 鉄刀剣・衝角付冑・短甲・玉類ほか | 5世紀中葉 |
| 4 | 千歳 車塚 | 前方後円 | 85前後? | 周濠 | 2~3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | (未　詳) | (未　詳) | 6世紀前半 |
| 5 | 新　宮 | 帆立貝？ | (54~)74 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ~Ⅴ期) | 竪穴式石槨(箱形石棺) | (伝)鉄刀剣・甲冑 | 5世紀中葉 |
| 6 | 黒　田 | 前方後円 | 約 52 | —— | —— | —— | —————— | 竪穴式石槨・箱形木棺 | 舶載双頭龍文鏡・管玉・鉄鏃・漆塗製品,土師器 | 3世紀後葉 |
| 7 | 黒田北2号 | 前方後円 | 約 18 | —— | —— | —— | 埴輪(Ⅴ期) | 箱形木棺 | 鉄鏃・刀子・須恵器・土師器 | 6世紀初頭 |
| 8 | う さ の | 前方後円 | 約 37 | —— | —— | 葺石 | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 6世紀前半 |
| 9 | 寮察使1号 | 前方後円 | (約29) | (未詳) | (未詳) | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | 須恵器 | (未　詳) |
| 10 | 野　条 | 前方後円 | (約27) | (不詳) | (不詳) | (不詳) | (不　詳) | (不　詳) | (伝)鉄刀剣・甲冑 | 5世紀 |
| 11 | 安石山太山2号 | 前方後円 | 約 38 | —— | (不詳) | (不詳) | (不　詳) | (不　詳) | (不　詳) | (未　詳) |
| 12 | 加　塚 | 前方後円 | 約 60 | (未詳) | (未詳) | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 13 | 穴太 12号 | 前方後円 | 約 30 | —— | —— | 葺石 | 埴輪(時期未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 14 | 拝田 16号 | 前方後円 | 45前後? | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 | (未　詳) | 6世紀前半 |
| 15 | 豊田 車塚 | 前方後円 | 約 32 | (未詳) | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | 須恵器 | 5世紀中葉 |
| 16 | カナヤ1号 | 前方後円 | 約 37 | (未詳) | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀後葉 |
| 17 | イゴリ塚 | 前方後円 | 約 23 | —— | —— | 葺石 | (未　詳) | 横穴式石室 | 須恵器 | 6世紀中葉 |
| 18 | 谷田山1号 | 前方後円 | 約 28 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 | (未　詳) | 6世紀 |
| 19 | 稲荷山 | 前方後円 | 約 27 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 | (未　詳) | 6世紀 |
| 20 | 極楽山 | 帆立貝 | 約 32 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 21 | 春日江4号 | 前方後円 | 約 26 | —— | —— | 葺石? | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 22 | 鞍　塚 | 前方後円 | 約 45 | 周濠? | (未詳) | (未詳) | 埴輪(時期未詳) | (未　詳) | 鉄刀剣・馬具類・土師器 | (未　詳) |
| 23 | 宝地山5号 | 前方後円 | 約 26 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 24 | 宝地山1号 | 前方後円 | 約 32 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | 七鈴鏡 | 6世紀 |
| 25 | 洞中2号 | 前方後円 | 約 33 | —— | 2段? | 葺石? | (未　詳) | 横穴式石室 | (未　詳) | 6世紀後半 |
| 26 | 遊谷1号 | 前方後円 | 約 30 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 27 | 長者ヶ谷4号 | 帆立貝 | 約 43 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 28 | 長者ヶ谷16号 | 前方後円 | 約 20 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 29 | 火燈山 | 前方後円 | 約 26 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 30 | 大滝2号 | 前方後円 | 約 28 | —— | —— | —— | 埴輪(Ⅴ期) | 箱形木棺(2) | 重圏文鏡・玉類・鉄刀剣・農工具類・馬具類・須恵器・土師器 | 5世紀後葉 |
| 31 | 小丸山1号 | 前方後円 | 約 21 | —— | —— | (未詳) | 埴輪(時期未詳) | 横穴式石室 | 須恵器 | 6世紀後半 |
| 32 | 半鐘塚1号 | 前方後円 | 約 28 | —— | —— | (未詳) | 埴輪(Ⅳ期) | 横穴式石室？ | 須恵器 | 5世紀末~6世紀初頭 |
| 33 | 南谷山頂 | 前方後円 | 約 33 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | 須恵器 | (未　詳) |
| 34 | 峠尻2号 | 前方後円 | 約 28 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 | 銅鏡・勾玉・切子玉・管玉・鉄刀・馬具類・須恵器 | 6世紀中葉 |
| 35 | 峠尻4号 | 前方後円 | 約 31 | —— | 2段 | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | 須恵器 | 6世紀前葉 |
| 36 | 丸山1号 | 前方後円 | 約 48 | —— | 2段 | 葺石 | —————— | 竪穴式石槨(2) | 舶載四獣鏡・仿製内行花文鏡・車輪石・鉄剣・鉄鉾・鉄鏃・鉄斧ほか | 4世紀中葉 |
| 37 | 西　山 | 前方後円 | 約 27 | —— | —— | 葺石 | (未　詳) | 竪穴式石槨?(2) | (未　詳) | (未　詳) |
| 38 | 二間塚 | 前方後円 | 約 34 | (未詳) | —— | (未詳) | (未　詳) | (石　室) | (未　詳) | 5世紀後半~6世紀初頭 |
| 39 | 鶯西SX49号 | 前方後方 | 約 34 | 周溝 | (不詳) | —— | —————— | (不　詳) | 土師器 | 3世紀後葉 |
| 40 | 城　跡 | 前方後円 | 約 40 | —— | (未詳) | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 41 | 久田山F1号 | 前方後円 | 約 32 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀末以降 |
| 42 | 久田山F3号 | 前方後円 | 約 29 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀末以降 |
| 43 | 高鷲 茶臼山 | 前方後円 | 約 54 | —— | 2段 | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀後葉 |
| 44 | 野崎5号 | 前方後円 | 約 26 | 周溝 | (不詳) | —— | —————— | (未　詳) | (不　詳) | 6世紀初頭 |
| 45 | 上杉1号 | 前方後円 | 約 50 | (不詳) | (不詳) | (不詳) | 埴輪(Ⅴ期) | 横穴式石室 | (不　詳) | 6世紀前半 |
| 46 | 沢　3　号 | 前方後円 | 約 46 | 墓台部? | 2段 | 葺石 | 埴輪(時期未詳) | (礫　床) | 鉄斧・環鈴・轡・鏡板ほか | 5世紀後半 |
| 47 | 成久田墓 15号 | 前方後円 | 約 41 | (不詳) | (不詳) | (不詳) | (不　詳) | (不　詳) | (不　詳) | 6世紀前半 |
| 48 | 成久田墓 16号 | 前方後円 | 約 43 | (不詳) | (不詳) | (不詳) | (不　詳) | (不　詳) | (不　詳) | 6世紀前半 |
| 49 | 成久田墓 78号 | 前方後円 | 約 37 | —— | —— | (未詳) | 埴輪(Ⅴ期) | (未　詳) | (未　詳) | 6世紀前半 |
| 50 | 殿山1号 | 前方後円 | 約 50 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀後葉~6世紀前葉 |
| 51 | 岫山3号 | 前方後円 | 約 38 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀後葉 |
| 52 | 岫山2号 | 前方後円? | 28前後? | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 53 | 岫山1号 | 前方後円 | 約 46 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 5世紀中葉 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 54 | ニワトリ塚 | 前方後円 | 約 24 | (未詳) | (未詳) | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 6 世 紀 |
| 55 | 須波伎 東 | 前方後円 | 約 34 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) |
| 56 | 稲 荷 山 | 前方後円 | 約 30 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | (未　詳) | (未　詳) | 6 世 紀 前 半 |
| 57 | 広峯 15号 | 前方後円 | 約 40 | —— | —— | —— | —————— | 割竹形木棺 | 舶載三角縁神獣鏡・管玉・鉄剣・鉄槍・鉄斧ほか | 4 世 紀 後 半 |
| 58 | 福蔵山10号 | 前方後円 | 約 38 | —— | —— | —— | 埴輪(V期) | (礫　床) | 鉄鏃・須恵器 | 6 世 紀 前 葉 |
| 59 | 妙見 11号 | 前方後円 | 約 40 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 | (未　詳) | 6 世 紀 前 葉 |
| 60 | 男塚 1号 | 前方後円 | 約 28 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室 | 須恵器 | 6 世 紀 中 葉 |
| 61 | 牧 正 一 | 前方後円 | 約 35 | —— | —— | (未詳) | (未　詳) | 横穴式石室(2) | 金銅耳環・鉄刀・鉄鏃・馬具類・須恵器・土師器ほか | 6 世 紀 後 葉 以 前 |

(推定築造時期の明示列は，下記の参考文献の記載に従っており，第3図の時期表示とは必ずしも合致しない)

主要参考文献（五十音順）


綾部市教育委員会 1989 『綾部市文化財調査報告』第16集。
梅原末治 1920 「以久田村群集墳」（『京都府史蹟勝地調査会報告』第2冊）。
梅原末治 1940 「牧の石室墳」（『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第20冊）。
奥村清一郎 1983 「丹波」(『歴史公論』第9巻第3号)。
奥村清一郎 1988 「大堰川水系における前・中期古墳の動向」(『日野昭博士還暦記念論集 歴史と伝承』)。
京都府教育委員会 1986 『京都府遺跡地図』第3分冊。
京都府教育委員会 1987 『京都府遺跡地図』第2分冊。
京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987 「野崎遺跡の削平された古墳群」(『京都府埋蔵文化財情報』第24号)。
山南町 1977 『丸山古墳群調査の概要』。
園部町教育委員会 1991 『船阪・黒田工業団地予定地内遺跡群発掘調査概報』。
平良泰久ほか 1983 『丹波の古墳』Ⅰ。
平良泰久・久保哲正・奥村清一郎 1986 『日本の古代遺跡』27 京都Ⅰ。
平良泰久・高井健司 1992「丹波」(『前方後円墳集成』近畿編)。
常盤井智行 1983 「由良川中流域の古墳の動向」（『丹波の古墳』Ⅰ）。
西紀・丹南町教育委員会 1993 『丹南町遺跡分布地図』。
櫃本誠一 1974 「兵庫県下における前方後円墳」（『兵庫県埋蔵文化財調査集報』第2集）。
櫃本誠一・瀬戸谷 晧 1982 『日本の古代遺跡』2 兵庫北部。
福知山市教育委員会 1989 『駅南地区発掘調査報告書』。
福知山市教育委員会 1994 『福知山市遺跡地図』。
文化庁 1982 『全国遺跡地図』兵庫県。
森 浩一ほか 1990 『園部垣内古墳』。




第３図　丹波における前方後円（方）墳分布図（縮尺 1/300,000）

1 中畷古墳，2 垣内古墳，3 雲部車塚古墳，4 千歳車塚古墳，5 新宮古墳，6 黒田古墳，7 黒田北2号墳，8 うさの古墳，9 安察使１号墳，10 野条古墳，11 安行丸山2号墳，12 加塚古墳，13 穴太12号墳，14 拝田16号墳，15 豊田車塚古墳，16 カナヤ1号墳，17 イゴリ塚古墳，18 谷田山1号墳，19 稲荷山古墳，20 極楽山古墳，21 春日江4号墳，22 鞍塚古墳，23 宝地山5号墳，24 宝地山1号墳，25 洞中2号墳，26 遊谷１号墳，27 長者ケ谷4号墳，28 護摩ケ谷16号墳，29 火燈山古墳，30 大滝2号墳，31 小丸山古墳，32 半鐘塚1号墳，33 南谷山頂古墳，34 峠尻2号墳，35峠尻4号墳，36 丸山１号墳，37 西山古墳，38 二間塚古墳，39 青野西SX49号墳，40 城跡古墳，41久田山Ｆ1号墳，42 久田山Ｆ3号墳，43 高槻茶臼山古墳，44 野崎5号墳，45 上杉１号墳，46 沢3号墳，47 以久田野15号墳，48 以久田野16号墳，49 以久田野78号墳，50 殿山１号墳，51 岫山3号墳，52 岫山2号墳，53 岫山１号墳，54 ニワトリ塚古墳，55 須波伎東古墳，56 稲荷山古墳，57 広峯15号墳，58稲葉山10号墳，59 妙見11号墳，60 男塚1号墳，61 牧正一古墳

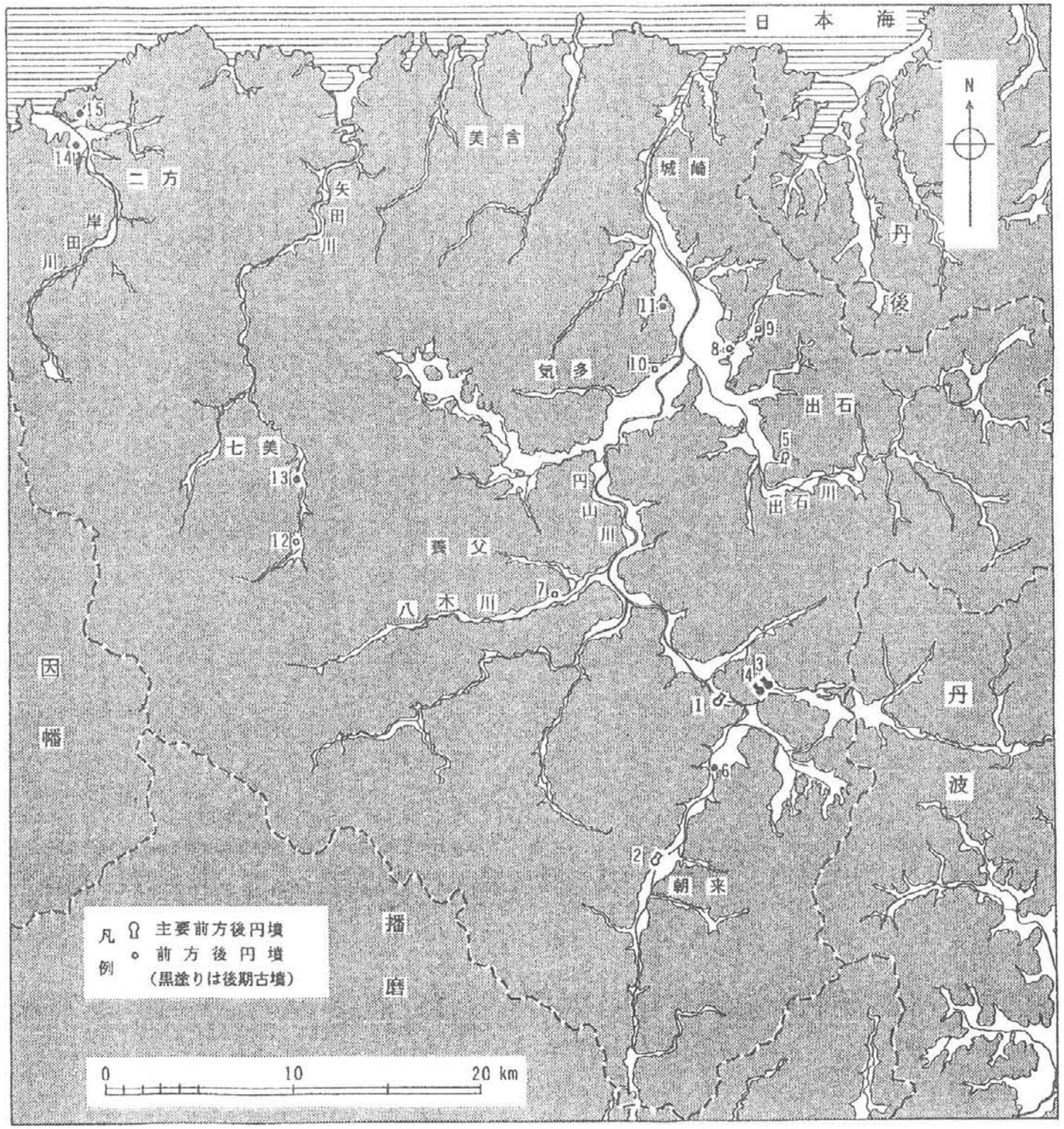
第4表　但馬における前方後円（方）墳一覧表

| 番号 | 古墳名 | 墳形 | 規模(m) | 外部設備 | | | | 埋葬設備 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 主要出土品 | | | | | | | 築造時期 |
| 1 | 池田 | 前方後円 | 約136 | 周濠 | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) | (不詳) |
| | (不詳) | | | | | | | 5世紀前葉 |
| 2 | 船宮 | 前方後円 | 約 91 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 5世紀後葉 |
| 3 | 長塚 | 前方後円 | 70前？ | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | (石室？) |
| | (未詳) | | | | | | | 6世紀前葉 |
| 4 | 小盛山 | 前方後円 | 約 60 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 6世紀前葉 |
| 5 | 茶臼山 | 帆立貝？ | (49)~63 | 周濠 | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 竪穴式石槨？ |
| | (伝)人骨・鉄刀 | | | | | | | 5世紀後半 |
| 6 | 加都車塚 | 前方後円 | 43以上 | 周濠？ | (未詳) | (未詳) | 埴輪(Ⅴ期) | 横穴式石室 |
| | (未詳) | | | | | | | 6世紀前葉 |
| 7 | 上山 | 前方後円 | 約 41 | —— | —— | 葺石 | (未詳) | (未詳) |
| | (未詳) | | | | | | | 5世紀前半 |
| 8 | 舟隠1号 | 前方後円 | 45前？ | —— | —— | (未詳) | (未詳) | 箱形石棺 (2) |
| | (未詳) | | | | | | | 5世紀初頭 |
| 9 | 森尾 | 前方後方 | 約 48 | —— | —— | (未詳) | (未詳) | 竪穴式石槨(3) |
| | 舶載三角縁神獣鏡・勾玉・管玉・ガラス小玉・鉄剣・銅鏃・鉄鏃ほか | | | | | | | 4世紀前半 |
| 10 | ホーキ | 前方後円 | 約 53 | —— | —— | 葺石 | (未詳) | 箱形石棺 (2) |
| | (伝)玉類・土器類 | | | | | | | 5世紀初頭 |
| 11 | 見手山1号 | 前方後円 | 約 35 | —— | —— | —— | —— | 竪穴系横口式石室 |
| | 銀空玉・管玉・土玉・鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・刀子・須恵器ほか | | | | | | | 6世紀後半 |
| 12 | 庵ノ谷2号 | 前方後円 | 50前後？ | (未詳) | (不詳) | (未詳) | (未詳) | 竪穴式石槨（箱形石棺） |
| | 土師器枕・勾玉(ヒスイ・ガラス)・管玉・鉄刀・鉄剣・鉄斧 | | | | | | | 5世紀初頭 |
| 13 | 高井 | 前方後円 | 約 50 | —— | (未詳) | (未詳) | (未詳) | 横穴式石室？ |
| | (未詳) | | | | | | | 6世紀前葉 |
| 14 | 浦谷1号 | 前方後円 | 約 25 | —— | —— | (未詳) | 埴輪(Ⅴ期) | (石室) |
| | 須恵器 | | | | | | | 6世紀初頭 |
| 15 | マルダ | 前方後円 | 約 28 | —— | —— | 葺石 | (未詳) | 横穴式石室？ |
| | (未詳) | | | | | | | 6世紀 |

(1~14の推定築造時期は，下記の参考文献の記載に従っている。なお，豊岡市二位古墳群中の古墳でも前方後円墳の可能性が指摘されているが〔豊岡市1989〕，前方後方墳の可能性を残す)

主要参考文献（五十音順）


朝来町教育委員会 1990『船宮古墳』。
梅原末治 1925「出石郡神美村の古墳」（『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第2輯）。
梅原末治 1925「城崎郡今津の小見塚古墳」（『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第2輯）。
瀬尾恵理子・瀬戸谷　晧 1981「円山川下流域の古墳について」（『よみがえる古代の但馬』）。
瀬戸谷　晧 1981「考古学からみた豊岡」（『豊岡市史』上巻）。
瀬戸谷　晧 1992「但馬」（『前方後円墳集成』近畿編）。
田畑　基 1994「但馬における前方後円墳の出現」（『前方後円墳の出現をめぐって』）。
豊岡市教育委員会 1983『見手山古墳群発掘調査概要』。
豊岡市教育委員会 1989『豊岡市埋蔵文化財分布地図および地名表』。
中島雄二 1991「但馬の埴輪について」（『但馬考古学』第6集）。
榧本誠一・瀬戸谷　晧 1982『日本の古代遺跡』2 兵庫北部。
兵庫県 1992『兵庫県史』考古資料編。
文化庁 1982『全国遺跡地図　兵庫県』。
安田博幸ほか 1973『茶臼山・鶏塚古墳測量報告』武庫川女子大学考古学研究会。
和田山町教育委員会 1972『城の山・池田古墳』。
和田山町教育委員会 1981『和田山町の文化財』第2版。


第4図　但馬における前方後円（方）墳分布図（縮尺 1/300,000）
1 池田古墳，2 船宮古墳，3 長塚古墳，4 小盛山古墳，5 出石茶臼山古墳，6 加都車塚古墳，7 上山古墳，8 舟隠1号墳，9 森尾古墳，10 ホーキ古墳，11 見手山1号墳，12 庵ノ谷2号墳，13 高井古墳，14 浦谷1号墳，15 マルダ古墳

第5表　越前における大首長墳の変遷

| 古墳名 | 墳形 | 径(m) | 外部設備 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 手繰ケ城山 | 前方後円 | 約129 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) |
| 六呂瀬山1号 | 前方後円 | 約140 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) |
| 六呂瀬山3号 | 前方後円 | 約 90 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) |
| 免鳥長山 | 帆立貝 | 約 88 | —— | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) |
| 泰遠寺山 | 帆立貝 | 約 64 | 周濠 | 2段? | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) |
| 石舟山 | 前方後円 | 約 85 | —— | 2段 | —— | 埴輪(Ⅳ期) |
| 二本松山 | 前方後円 | 約 90 | —— | —— | —— | 埴輪(Ⅳ期) |
| 椀貸山 | 前方後円 | 約 45 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) |
| 神奈備山 | 前方後円 | 約 60 | 墓台部 | 2段 | 葺石 | —— |

（六呂瀬山3号墳の規模は，報告書掲載図より改訂）

第6表　能登における前～中期の大首長墳一覧表

| 古墳名 | 墳形 | 径(m) | 外部設備 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 亀塚 | 前方後方 | 約 62 | 周濠? | —— | 葺石 | —— |
| 雨ノ宮1号 | 前方後方 | 約 64 | 墓台部 | 2段 | 葺石 | —— |
| 親王塚 | 円 | 約 67 | 周濠 | 2段 | 葺石 | —— |
| 徳田煙明山 | 前方後円 | 約 83 | —— | 2段 | 葺石 | —— |
| 雨ノ宮2号 | 前方後円 | 約 64 | 墓台部 | 2段 | 葺石 | —— |
| 水白鍋山 | 帆立貝 | 約 67 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) |
| 滝大塚 | 帆立貝？ | 約90? | 周濠? | 2段? | 葺石 | 埴輪(Ⅱ期) |

（亀塚～雨ノ宮2号各古墳と水白鍋山・滝大塚両古墳との，埴輪の有無の差を有する2群は新古に分けうるが，それぞれの群内での上下関係は必ずしも新古を意味していない。なお，水白鍋山古墳の規模は墳丘基底線から算出）

第7表 北近畿・北陸両地方の首長墳における段築を有する割合

| ＼国域 | 但馬 | 丹波 | 丹後 | 若狭 | 近江 | 越前 | 加賀 | 能登 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 該当数(基) | 9 | 18 | 17 | 11 | 30 | 19 | 4 | 9 |
| 総基数(基) | 36 | 83 | 57 | 34 | 139 | 129 | 51 | 64 |
| 保有率(%) | 25 | 22 | 30 | 32 | 22 | 15 | 8 | 4 |

（首長墳には前方後円墳のみならず円墳・方墳をも含む。第8~10表も同様）

第8表 北近畿・北陸両地方の首長墳における葺石を有する割合

| ＼国域 | 但馬 | 丹波 | 丹後 | 若狭 | 近江 | 越前 | 加賀 | 能登 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 該当数(基) | 19 | 24 | 17 | 13 | 39 | 15 | 4 | 18 |
| 総基数(基) | 36 | 83 | 57 | 34 | 139 | 129 | 51 | 64 |
| 保有率(%) | 53 | 29 | 30 | 38 | 28 | 12 | 8 | 28 |

第9表 北近畿・北陸両地方の首長墳における埴輪を有する割合

| ＼国域 | 但馬 | 丹波 | 丹後 | 若狭 | 近江 | 越前 | 加賀 | 能登 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 該当数(基) | 12 | 25 | 20 | 20 | 47 | 19 | 10 | 10 |
| 総基数(基) | 36 | 83 | 57 | 34 | 139 | 129 | 51 | 64 |
| 保有率(%) | 33 | 30 | 35 | 59 | 34 | 15 | 20 | 16 |

第10表 北近畿・北陸両地方の首長墳における段築・葺石を有する割合

| ＼国域 | 但馬 | 丹波 | 丹後 | 若狭 | 近江 | 越前 | 加賀 | 能登 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 該当数(基) | 9 | 16 | 14 | 10 | 20 | 14 | 2 | 8 |
| 総基数(基) | 36 | 83 | 57 | 34 | 139 | 129 | 51 | 64 |
| 保有率(%) | 25 | 19 | 25 | 29 | 14 | 11 | 4 | 13 |

第11表 若狭における大首長墳の変遷

| 番号 | 古墳名 | 墳形 | 径(m) | 外部設備 | | | | 埋葬設備 | 主要副葬品等 | 築造時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 上ノ塚 | 前方後円 | 約100 | 周濠 | 3段 | 葺石 | 埴輪(Ⅲ期) | 未詳 | 未詳 | 4世紀末～5世紀前半 |
| 2 | 城山 | 前方後円 | 約 63 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 未詳 | 未詳（須恵器-高坏片） | 5世紀前半 |
| 3 | 西塚 | 前方後円 | 約 74 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 竪穴系横口式石室か | 舶載神人画像鏡・仿製四獣鏡・金垂飾付耳飾・ガラス勾玉・管玉・金銅帯金具・銀鈴・銅鈴・鉄剣・鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・眉庇付冑・肩甲・頸甲・短甲・轡・金銅杏葉・鉄斧・須恵器(壺・高坏片－TK23型式) | 5世紀後葉 |
| 4 | 中塚 | 前方後円 | 73 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅳ期) | 未詳 | 未詳 | 5世紀後葉 |
| 5 | 十善ノ森 | 前方後円 | 約 67 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | 横穴式石室(2) | 舶載方格規矩四神鏡・金銅冠帽・竹櫛・ガラス勾玉・管玉・トンボ玉・コハク玉・平玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・銀空玉・滑石小玉・金銅三輪玉・銀捩文環頭大刀・石突・鉄鏃・鉄刀子・胡禄・轡・環鈴・金銅杏葉・兵庫鎖・鐙・金銅鞍金具(以上2体分)，人骨・鉄剣・鉄刀・須恵器(蓋・坏-MT15型式か)・土師器(壺)(以上1体分) | 5世紀末～6世紀初頭 |
| 6 | 上船塚 | 前方後円 | 約 70 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | 未詳 | 未詳 | 6世紀前葉 |
| 7 | 下船塚 | 前方後円 | 約 85 | 周濠 | 2段 | 葺石 | 埴輪(Ⅴ期) | 未詳 | 未詳 | 6世紀中葉 |

（埴輪編年は川西1978年，須恵器編年は田辺1966年，に準拠して時期を表示。なお，今後の調査しだいでは5世紀に籠塚が入る）

第12表　北近畿における段築・葺石を有する埴輪編年のⅤ期以前の古墳の変遷

| 国域 | 但馬 | 丹波 | | | 丹後 | | | 若狭 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域 | 円山川上・中流域 | 西丹波 | 南丹波 | 北丹波 | 福田川流域 | 竹野川流域 | 野田川流域 | 北川流域 | |
| 埴輪編年 | | | | | | | 白米山（92） | | |
| Ⅱ期 | | 丸山1号(48)<br>北条（35） | 中畷（84基）<br>垣内（82） | | 網野銚子山(198)<br>小銚子（36） | 神明山(190) | 蛭子山1号(145)<br>作山1号（36）<br>法王寺（74） | | |
| Ⅲ期 | 池田（135） | | 剣塚(40) | 高塚（32）<br>聖塚（54） | | 黒部銚子山(100)<br>産土山（56） | 作山4号（30）<br>鳴谷東1号(54) | 上ノ塚(100) | |
| Ⅳ期 | 茶臼山(49～64)<br>船宮（91）<br>宵塚（29） | 雲部車塚(140)<br>新宮(54～74) | 坊子塚(34) | 私市円山(55)<br>妙見1号(42)<br>沢3号(46) | | | 後野円山1号（35）<br>後野円山2号（19） | 城山（63）<br>西塚（74）<br>中塚(73歳) | 向山1号(49)<br>上下之森(54)<br>袋塚(26以上) |
| Ⅴ期 | 長塚（70）<br>小盛山（60） | | 千歳車塚(85) | | | | | 十善ノ森（67）<br>上船塚（70）<br>下船塚（85） | |

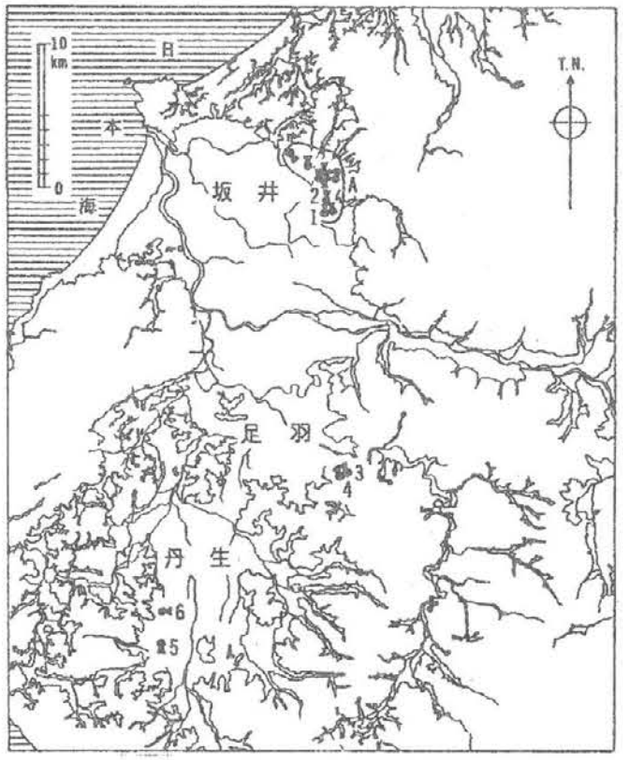
注

① 同一枠内の上下関係は，必ずしもその新古を意味しない（数字の単位はm）。
② 網掛けは，各該当域の大首長墳と推定(出石茶臼山・新宮の最大規模は推定復原値)。
③ 今後の調査次第では，若狭の大首長墳に籠塚が入る。
④ 埴輪編年のⅤ期の上限は，若狭と丹後以西とでは異なる可能性が強い。

第13表　中期大型前方後円墳の墳丘両部分の変化

| 部分＼古墳 | 黒部銚子山 | 池　田 | 雲部車塚 | 船　宮 |
|---|---|---|---|---|
| 墳時　編年 | Ⅲ | 期 | Ⅳ | 期 |
| 後円部 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 前方部 | 81 | 93 | 113 | 129 |

（前方部の数値は，それぞれの後円部を100とした場合の比率である）




第5図　越前北・中央部における後期前方後円墳分布図
（縮尺1/500,000）
1 椀貸山古墳，2 神奈備山古墳，3 御茸山106号墳，4 御茸山127号墳，5 岡本山1号墳，6 東山20号墳，A 中川7号・中川12号・中川48号・中川51号・中川61号・中川65号・坪江3号・八皇子山・タコ山の各古墳

第14表　越前の後期前方後円墳

| 郡名 | 基数 | 古　墳　名（括弧内の数値は全長。単位はm） |
|---|---|---|
| 敦賀 | 1 | 明神山9号(20) |
| 丹生 | 2 | 岡本山1号(45)→東山20号(34) |
| 今立 | (欠) | （未　詳） |
| 足羽 | 2 | 御茸山106号(22)，御茸山127号(23) |
| 坂井 | 11 | 椀貸山(45)→神奈備山(60) |
| | | 中川65号(40)，中川61号(40)，中川7号(49)，坪江3号(30弱)，中川12号(29)，中川48号(24)，中川51号(28)，八皇子山(27)，タコ山(34) |
| 大野 | (欠) | （未　詳） |

（網掛けは大首長墳）

第15表　若狭の後期前方後円墳

| 郡名 | 基数 | 古　墳　名（括弧内の数値は全長。単位はm） |
|---|---|---|
| 遠敷 | 4 | 十善ノ森(67)→上船塚(70)→下船塚(85) |
| | | 太興寺天神山21号(13) |
| 三方 | 1(2) | (帝釈寺4号(30余)→)獅子塚(32) |
| 大飯 | 2 | 二子山3号(26)→行峠(34) |

（網掛けは大首長墳）

第16表　丹後の後期前方後円墳

| 郡名 | 基数 | 古　墳　名（括弧内の数値は全長。単位はm） |
|---|---|---|
| 与謝 | 1 | タベカニ(30) |
| 加佐 | (欠) | （未　詳） |
| 丹波 | 2 | 新戸1号(36)，がんじあん2号(30) |
| 竹野 | 1 | スクモ塚3号(19) |
| 熊野 | 1 | 平野(26) |

第17表　丹波の後期前方後円墳

| 郡名 | 基数 | 古　墳　名（括弧内の数値は全長。単位はm） |
|---|---|---|
| 桑田 | 2 | 千歳車塚(85)，拝田16号(45) |
| 船井 | (2?) | (豊田車塚(32)，乗鞍(37)?) |
| 多紀 | 11 | イゴリ塚(23)，稲荷山(27)，谷田山1号(28)，宝地山1号(32)，洞中2号(34)，半鐘塚(28)，小丸山1号(21)，南谷山(33)，峠尻4号(31)，峠尻2号(28)，護摩ケ谷16号(20) |
| 氷上 | (1?) | 二間塚(35)? |
| 何鹿 | 5 | 野崎5号(26)，上杉1号(50)，以田野78号(37)，殿山1号(50)，稲荷山(30) |
| 天田 | 4 | 妙見11号(40)，稲葉山10号(38)，牧正一(35)，男塚1号(28) |

（網掛けは大首長墳）

第18表　但馬の後期前方後円墳

| 郡名 | 基数 | 古　墳　名（括弧内の数値は全長。単位はm） |
|---|---|---|
| 朝来 | 3 | 長塚(70弱)→小盛山(60) |
| | | 加都車塚(43余) |
| 養父 | (欠) | （未　詳） |
| 出石 | (欠) | （未　詳） |
| 気多 | (欠) | （未　詳） |
| 城崎 | 1 | 見手山1号(35) |
| 七美 | 1 | 高井(50) |
| 美含 | (欠) | （未　詳） |
| 二方 | 2 | 浦谷1号(25)→マルダ(28) |

（網掛けは大首長墳）

第19表　畿内周辺地方・中部地方における3段築成の古墳

| 播　磨 | 但　馬 | 丹　後 | 若　狭 | 美　濃 | 尾　張 | 甲　斐 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 丁瓢塚(104) | 池　田　(135) | 蛭子山1号(145) | 上ノ塚(100) | 坊ノ塚(115) | 青塚茶臼山(120) | 大丸山(116) |
| 輿塚(110) | 出石茶臼山(64) | 網野銚子山(198) | | 登　越(90) | 断夫山(151) | 銚子塚(169) |
| 玉丘(106) | | 神明山(190) | | 南屋敷西(80) | | |
| 壇場山(147) | | | | 城　塚(82) | | |
| 行者塚(99) | | | | | | |

（網掛けは大王家との関連伝承を考えうる古墳。なお，3段説があるが，段数未確認の播磨・南大塚，美濃・昼飯大塚などは未記載）

第20表　畿内周辺地方・中部地方における2段築成の大型墳

| 丹　波 | 越　前 | 加　賀 | 能　登 | 信　濃 | 遠　江 | 駿　河 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 雲部車塚(140) | 手繰ケ城山(129)<br>六呂瀬山1号(140) | 塚茶臼山1号(120) | 徳田燈明山(83) | 森将軍塚(100) | 寺谷銚子塚(109)<br>松林山(116) | 谷津山1号(120) |

（ゴシックはその地方で最大規模であることを示す）

# 北近畿と畿内の小型墳

1995. 3. 25
和田晴吾

はじめに

(1)古墳－九州南部から東北南部にかけて全体で十数万基。

(2)大きな古墳（大山古墳全長４８６ｍ）、小さな古墳（全長数ｍ）。

(3)いずれも重要な歴史的資料－その動向は相互に影響しあい対応している。
ここでは小型墳（全長２０ｍ未満）の動向を概説し、その意味を考える。

1．多様な小型の墳墓（図２～７）

(1)小型の墳墓－弥生時代前期後半（前３世紀）から飛鳥時代（７世紀）

(2)小型の墳墓の種類（弥生－墳墓、古墳時代とその延長－古墳、総称－墳墓）

<table>
<tr><th colspan="3">時　期</th><th>名　称</th><th colspan="2">形態</th><th>埋　葬　施　設</th></tr>
<tr><td colspan="3">弥生</td><td>方形周溝墓<br>方形台状墓</td><td colspan="2">方形･円形</td><td>木棺直葬・土壙・箱式石棺他</td></tr>
<tr><td rowspan="4">古墳</td><td colspan="2">前・中期</td><td colspan="2">小型低方墳</td><td colspan="2">方形･円形</td><td>木棺直葬中心・箱式石棺他</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>前葉中心</td><td rowspan="3">群集墳</td><td>古　式</td><td colspan="2">円形</td><td>木棺直葬中心・横穴式石室（非畿内</td></tr>
<tr><td>中後葉</td><td>新　式</td><td colspan="2">円形</td><td>横穴式石室（畿内型・地方色）</td></tr>
<tr><td colspan="3">飛鳥</td><td>終末式</td><td colspan="2">方形･円形</td><td>横穴式石室（石槨化）他</td></tr>
</table>

(3)形の変化

形は方形や円形と単純だが、方形－円形－方形と時期により大きく変わる。

方形－円形＝古墳時代中期－後期（小型低方墳から古式群集墳）

円形－方形＝古墳時代後葉－飛鳥時代（新式群集墳から終末式群集墳）

(4)埋葬施設や棺の変化

①埋葬施設では弥生時代から古墳時代前・中期の間はあまり変化がなく、古墳時代後期前葉に入った古式群集墳の段階も、横穴式石室や竪穴系横口式石室などが加わるが、基本的には同じ。

②しかし、古墳後期中葉以降はほとんどの埋葬施設が横穴式石室となる（棺は顕著な変化なし）。

③そして、飛鳥時代に入ると横穴式石室が小型化（石槨化）、さらに多様化。新種の棺（持ち運ぶ棺）。

(5)画期

時期区分に応じて、小型の墳墓も変化し、それに応じて名前。

2．小型墳の階層的位置（図１）

(1)古墳時代中期の古墳の階層構成

超大型墳 ―――――――――――― 大王墳
大型墳 ―――――――――――― 大首長－中小首長
小型低方墳 ―――――――――――― 有力家長
墳丘なし－木棺直葬など（棺あり）―― 共同体構成員（一般民衆）
墳丘なし－土壙墓群（棺なし）――― 共同体構成員（下層一般民衆）

(2)図１から考えられること

①各首長は大王を頂点とする広汎な政治的まとまりのもとにあった。
［ヤマト政権－首長連合体制］

①首長層は地域ごとに政治的なまとまりを形成しつつ、政権下に従属していた。
［地域首長連合－大首長］

②各首長はそれぞれ自らよって立つ共同体を支配し、それを代表していた。
［首長の在地支配の温存］

③共同体は首長－有力家長－一般構成員から構成されていた。
［弥生以来の共同体の性格］

3．方形周溝墓から小型低方墳へ

(1)弥生時代－首長墓の出現－首長墓に固有の形

①形　弥生時代では、前・中期は墳墓の大小の差はあまりなく、ほとんどが小型。弥生時代中期後葉頃から比較的大型の方形周溝墓が出現しはじめ、終末

期になり大型や比較的大型の墳墓にのみ双方中円形や前方後方形、前方後円形、時には四隅突出形などのものが認められるようになる。

②埋葬施設・棺　墳墓の大きさに差のない時期は埋葬施設や棺にもあまり差はない。しかし、首長の墳墓が出現すると、まず大きさに差があらわれ、つぎに埋葬施設などにも差があらわれだす（槨の出現）。

［階層による埋葬施設や棺の使い分けの始まり］

・いずれも地方色がある。

(2)古墳時代－首長墳の序列化－埋葬施設・棺の階層的使い分け

①形　九州から東北に及ぶ広汎な範囲で、首長墳の形が、前方後円墳を頂点とする一定の秩序で統一されるのは古墳時代のことであり、前方後円形・前方後方形・帆立貝形などの多様な形は首長墳に限って用いられた。

・首長墳は形と大きさでもって秩序づけられた［古墳＝政治的身分の表彰］

・もっとも顕著になるのは中期－前方後円墳の築造規制

②埋葬施設・棺　前・中期は階層による埋葬施設や棺の使いわけ顕著。

竪穴式石槨・粘土槨、大型割竹形木棺・大型石棺などは首長墳に限られ、埴輪棺は小型低方墳の中心埋葬に使われることが希であった。

・しかし、特に前期後半以降、古墳の埋葬施設や棺には地域色が強い。

③小型低方墳　首長墳の多様化と比較して小型低方墳は弥生時代の方形周溝墓や方形台状墓とほとんど変わっていない。

・政権下の古墳秩序の外にあった。

・古墳時代前・中期は、在地支配を続ける首長層が大王を頂点に重層的に結び付いた体制であった。特に、中期は、大王を中心とする少数の大首長が各地の数多い中小首長を明確に序列化し支配する体制であった。

［首長連合体制の完成期］

4．小型低方墳から群集墳へ

(1)古墳時代中期から後期へ（５世紀後葉）

①首長連合体制の崩壊－中期的古墳秩序の崩壊

それに合わせ、小型低方墳の円墳化－古式群集墳の出現

②政権の支配体制が首長、特に大首長を通じてのそれから、これまで首長の在地支配の下にあった有力家長層にまで及んだ証し。

・中央集権的な新しい支配体制への第１歩が踏み出された。

(2)古式群集墳から新式群集墳へ（６世紀中葉）

①畿内型横穴式石室の採用

・円墳であり、かつ埋葬施設に横穴式石室を採用する群集墳の出現。

横穴式石室－畿内－後期前葉の５世紀後葉に出現－九州、朝鮮半島南部

・階層による埋葬施設の使い分けの崩壊

大王から山間・海浜の有力家長層まで共通の埋葬施設

・政治的身分の差は尺単位で秩序づけられた石室、特に玄室規模に表現された。

・畿内型横穴式石室＝長方形の玄室に長い羨道をもつ。基本的に天井は平らで玄門部に柱石やまぐさ石をもたない。１尺約３５ｃｍの尺によって設計されと推定される。

・この畿内型横穴式石室をもつ群集墳を新式群集墳と呼ぶ。

②首長墳としての前方後円墳の衰退・円墳化が対応

・首長の在地官人化が進行し、有力家長層の把握がより強く進行した。

おわりに

①北近畿－基本的的に畿内と同様

・方形周溝墓・特に方形台状墓の発達－小型低方墳－古式群集墳が発達

・畿内型横穴式石室－若狭－６世紀中葉、丹波・丹後－現在６世紀後葉

但馬－６世紀後半　　最初は首長墳－いずれものちに新式群集墳

②若狭－群集墳の発達－土器製塩の盛行が対応－軍事的編成だけではない

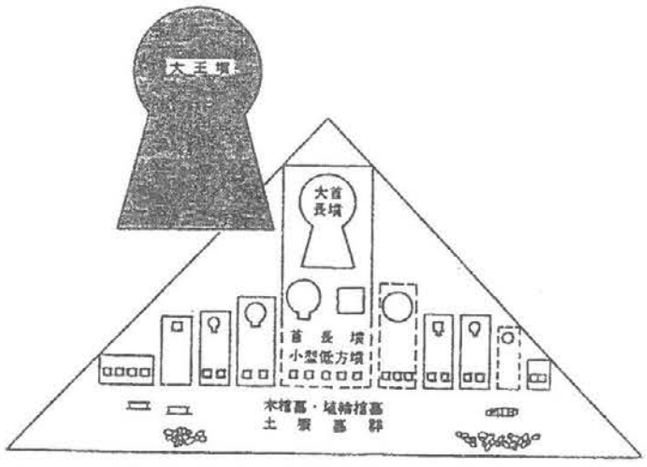



図１　南山城における中期古墳の階層構成

（長方形の枠は墓域を示す）

# 小型で群集する墳墓

図2　弥生時代
図3～6　古墳時代
図7　飛鳥時代

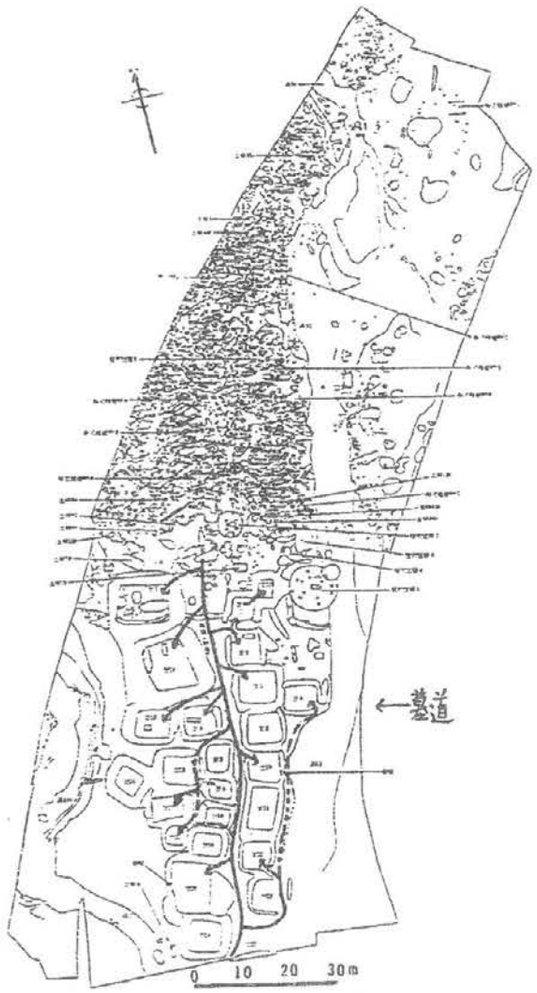



図2　弥生時代の方形周溝墓
（福井県吉河遺跡・中期－2基のみ後期
前2～2C）

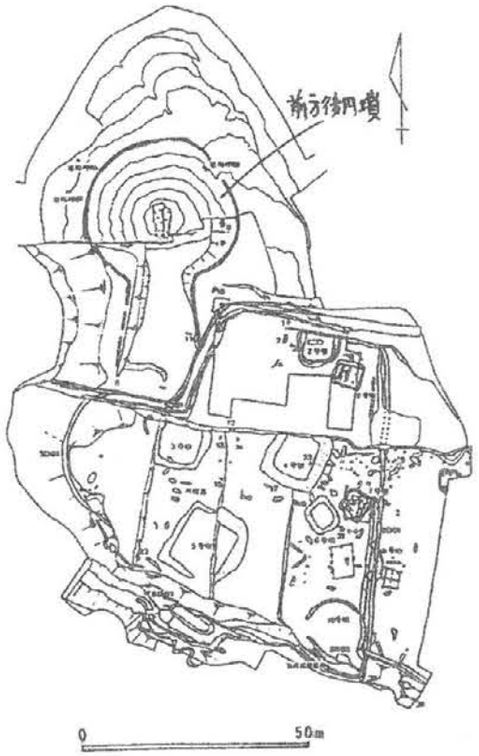



図3　首長墳と小型低方墳
（京都府瓦谷古墳群・前期・4C）

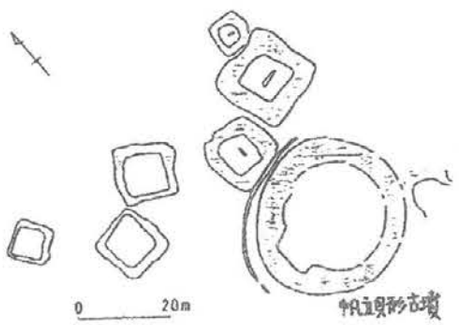



図4　首長墳と小型低方墳
（京都府上人ケ平古墳群・中期・5C）

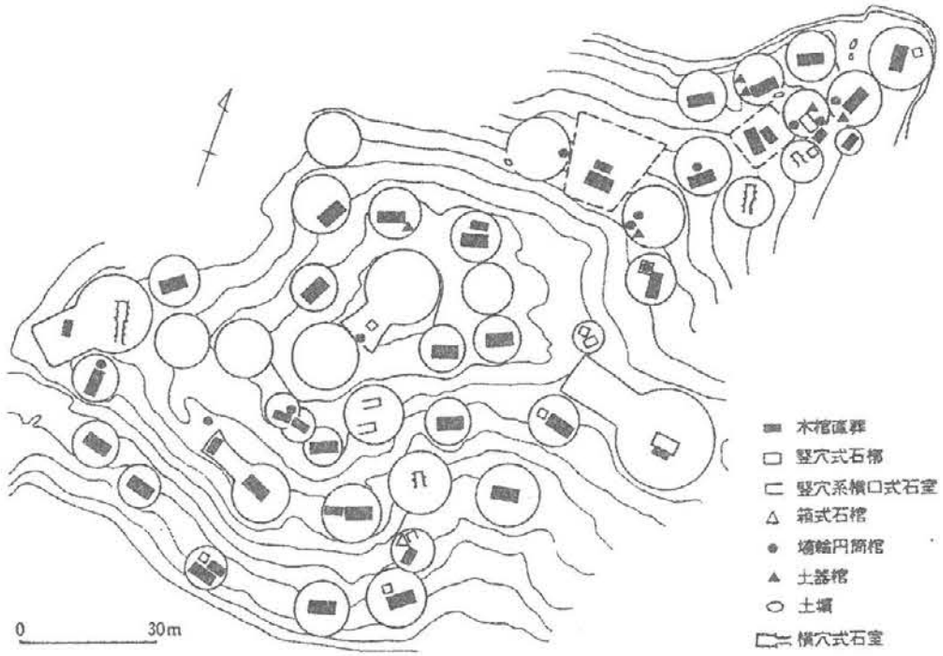



図5　古式群集墳（奈良県石光山古墳群・後期・6C）
（一部に新式群集墳）

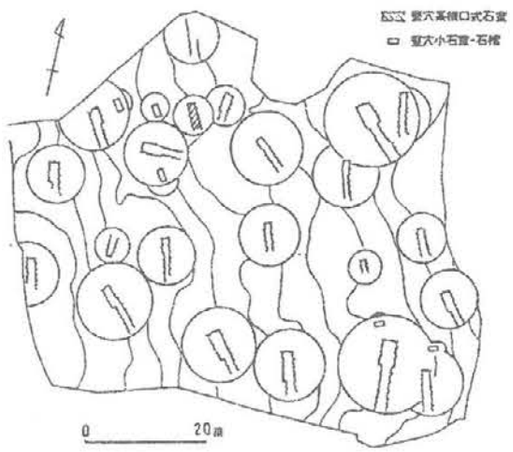



図6　新式群集墳
（奈良県寺口忍海古墳群・後期・6C）
（一部に古式群集墳）

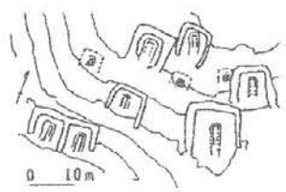



図7　終末式群集墳
（京都府旭山古墳群・飛鳥・7C）

［図は各報告書より転載、ないしは作図］

# 古墳からみた北近畿と畿内

## ――丹後、若狭と畿内王権の関係を中心に――

白　石　太　一　郎

### 1．問題の所在

同じ若狭湾沿岸に位置しながらも、丹後と若狭はきわめて対照的な古墳のあり方を示している。すなわち、丹後では古墳時代の前半期に網野銚子山、神明山古墳など墳丘長200㍍級の日本列島でも有数の大型前方後円墳が営まれるが、その後半期には墳丘長60㍍を越えるような前方後円墳はまったくみられなくなってしまう。これに対し若狭ではその後半期に、この時期としては比較的規模の大きな前方後円墳が安定して継続的に造営される。このような古墳のあり方の相違は、こうした支配者層の大型古墳にみられるだけではない。弥生時代の小墳丘墓の流れをひく小規模古墳が古墳時代前半期から後半期にも数多くみられる丹後に対して、そうしたあり方があまり顕著ではなく、６世紀になって小規模群集墳の造営が顕著になる若狭との違いにみられるように、小規模古墳のあり方にも大きな差異があるようである。

こでは特に前者の、丹後と若狭の間にみられる大型古墳の存在形態の大きな相違に焦点をあて、畿内王権とかかわりからその違いが示す歴史的な意味を考えてみたい。日本列島の他の地域におけるあり方と比較することによって、マクロな視点から考えてみることにしたい。

### 2．地域における大型古墳のあり方

古墳の墳丘規模の差がもつ意味は、同じ古墳時代でもそれぞれ時期によって異なるものと思われるが、少なくとも前方後円墳が造営された３世紀後半から６世紀後半までの間においては、前方後円墳の墳丘規模の差は、畿内政権を中心に形成されていた政治連合内部における政治的身分秩序を最も端的に表現するものととらえてよかろう。

いま、そうした墳丘規模の差とその変化を指標に、地域における大型古墳の存在形態を分類すると次ぎの五つの類型が設定できよう。細かく分ければさらに細分できるが、基本的なものはこの五つであろう。

(1)　安定継続型（上海上型）

前期から中期、さらに後期へと、ある程度の規模の古墳が継続的、安定的にたどれる地域。ただし実際にはこうした地域はきわめて少ない。強いてあげれば玄界灘沿岸の糸島地域や福岡平野、上総の姉崎古墳群を中心とする養老川下流域の上海上地域などがあげられる。

(2)　異動継続型（上野型）

個々の古墳群や小地域内では全期間にわたる存続は認められないが、地域全体でみればすべての時期に大型古墳の造営が認められる地域。上毛野は全体を一つにみた場合も、東西に分けて考えた場合も該当する。

(3)　断絶型（丹後型）

前期から中期のある段階まで大型古墳が継続するが、それ以降大型古墳の造営がみられなくなる地域。讃岐、丹後、甲斐や仙台平野などがその好例。ただ造営が中絶する時期は、それぞれ必ずしも同じではない。

(4)　後期縮小型（吉備型）

断絶型に近く、大規模な古墳は中期のある段階までしかみられないが後期にも少数の100㍍～60㍍級の前方後円墳がごく少数みられる地域。後期になって古墳の規模が急速に小型化する地域といってもよい。吉備や日向がその例。畿内では葛城地方がこの類型に含まれよう。

(5)　途中成立型（若狭型）

断絶型とは逆に、中期のある段階以降になって顕著な古墳が営まれるようになる地域。筑後南部、紀伊、若狭、北武蔵、上総の山武地域などその例は多い。

### 3．諸類型の意味するもの

この５類型のうち上海上型は古墳時代を通じて在地の首長権が安定的に継

続し、なおかつ畿内政権とのかかわりも安定的に続いた地域といえよう。また上野型は、地域内の首長層が連合して地域的政治連合を形成、その盟主権が異動したため古墳群や小地域単位では大型古墳の継続がみられなくなっているものであろう。なお上野でも後期には地域連合は解体したものと思われるが、小地域ごとに比較的大型の前方後円墳が安定的に継続して営まれる。

これらに対し丹後型は、前期から中期のある段階まで政治連合の中で一定の地位を占めていた地域首長の支配権ないし地域的政治連合が解体し、畿内政権との関係が大きく変化した地域といえよう。吉備型も基本的にはこの丹後型と同様な動きが進行した地域ととらえられよう。この丹後型・吉備型の場合、大型古墳の造営が中断する時期、すなわち畿内政権との関係が大きく変化した時期は、丹後や甲斐の場合は５世紀でも早い時期であるが、日向、吉備、讃岐、葛城などは５世紀でも新しい時期であることが注意される。

前者の場合は、畿内政権内部における盟主権の奈良盆地から大阪平野への移動、すなわち前期畿内政権から中期畿内政権への転換と連動したものであろう。また後者に場合は、５世紀後葉から末葉における大王権の著しい伸張と、それにともなう地域政権の解体と対応するものであろう。

最後の若狭型は、中期ないし後期のある段階になってはじめて、その地域の首長権が連合政権の中で一定の位置をしめるようになったものであるが、その時期は筑後南部や若狭のように中期初頭ないし前半に遡るものと、紀伊や山武地域のように後期になって始まるものがあって、必ずしも同じではない。また後期には大型前方後円墳造営の基準も、地域によって少なからず異なるようになるらしい。例えば関東地方などでは、後期なって各地に比較的大規模な前方後円墳が数多く造営されるようになり、それ以外の地域とは大きく異なったあり方を示すようになることが注目される。

４．丹後、若狭と畿内政権

こうした古墳の存在形態の諸類型の差異が、主としてその地域の首長権と畿内政権との関わり方の違いによって生じていることは確かであろう。丹後の場合は、同じ丹後型の讃岐や吉備型の吉備や日向と異なり、早くも中期の前葉で大型古墳の造営が終わる。さらに特に大規模な銚子山・神明山両古墳が前期後葉に遡ることは、皇妃伝承の存在からも伺われるように、前期畿内政権、とくにその中枢のヤマト王権そのものとの密接な関係を抜きにしては理解出来ないものであろう。こうした４世紀後半における丹後と畿内政権の密接な関係は、瀬戸内（吉備）を経由しない畿内と九州、さらに朝鮮半島を結ぶ海上交通路としての丹後の役割に対する期待と関係するものであろう。

連合政権における丹後の地位の急激な下落は、畿内政権における大阪平野の勢力による盟主権の掌握と関連しよう。それは吉備と提携した瀬戸内航路の重視の結果であろう。若狭最初の大型古墳の上ノ塚古墳の出現は、日本海側の海上交通の拠点としての丹後にかわる若狭重視の結果にほかならず、若狭における土器製塩の開始もまたこれと揆を一にするのである。

ただ、この場合注目されるのは、若狭の古墳が丹後のようには大型化しなかったことである。それは畿内政権と地方首長の結びつきのあり方が、４世紀代のような婚姻関係を前提とするような結合ではなく、擬制的な同族関係の設定はあったとしてもそれは形式的なもので、実質的には在地勢力を伴造的豪族に位置づけるものであったと思われる。若狭の豪族が膳氏を名のることはその意味でも興味深い。本来大王に海産物を捧げる役割を担っていたこの地の首長が、かっての丹後にかわって九州・朝鮮半島との海上交通にも、また軍事にも大きな役割をはたすようになったが、それはあくまでも伴造豪族として王権に奉仕するものに他ならなかった。若狭の古墳がそれ以後も墳丘長100㍍未満にすぎないのはこのためであろう。

丹後と若狭の古墳の在り方は、ともにそれぞれの地が日本海側の海上交通の拠点として畿内政権にとってきわめて重要な位置を占めたことを物語る。それにもかかわらず、両者の古墳の在り方が大きく相違するのは、畿内政権と地方政権の関係が、４世紀の前期畿内政権の段階と５世紀の中期畿内政権の段階とでは大きく異なっていたことを示すものであろう。

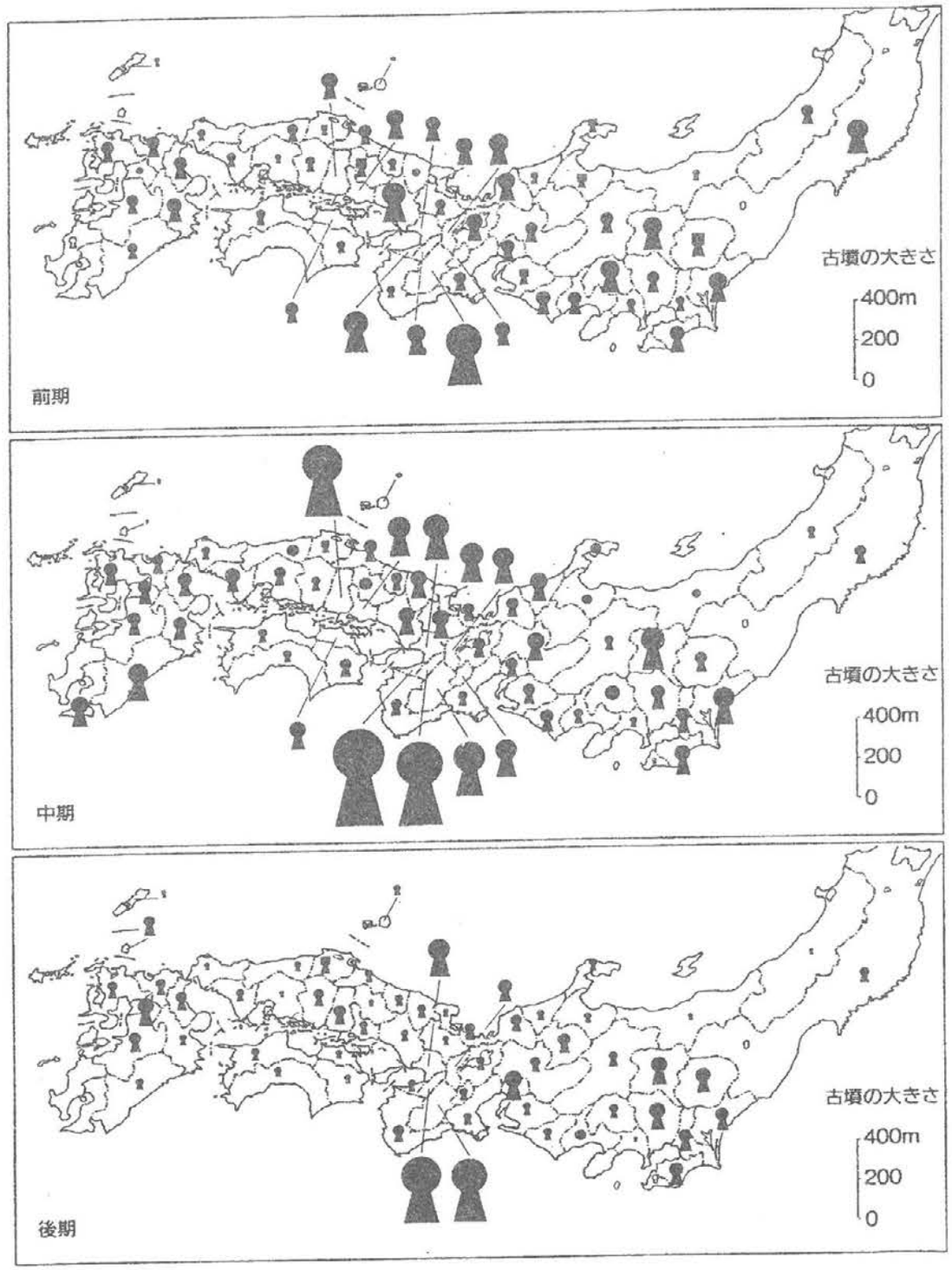



図１　旧国別にみた最大規模の古墳

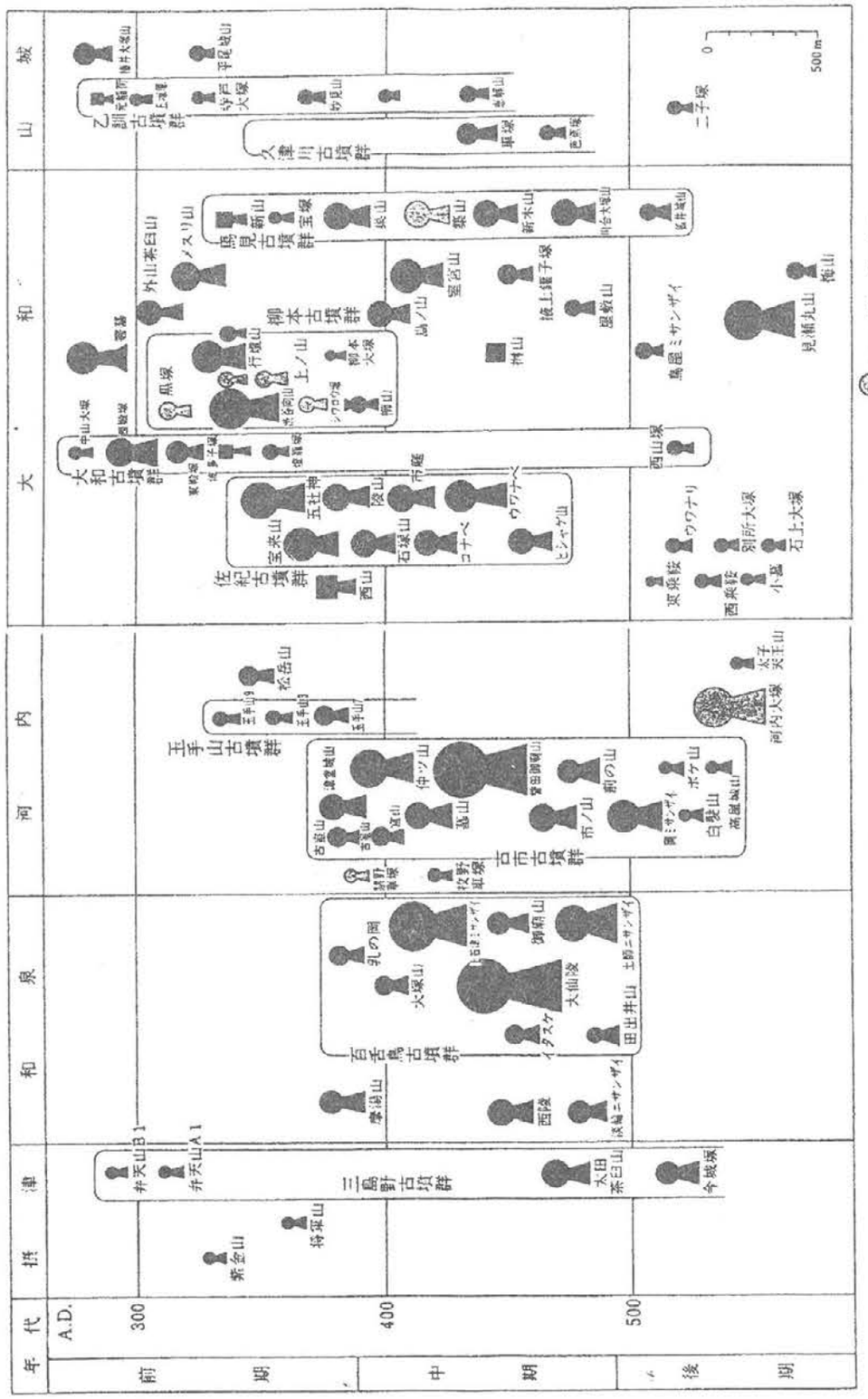



図２　畿内における大型古墳の編年

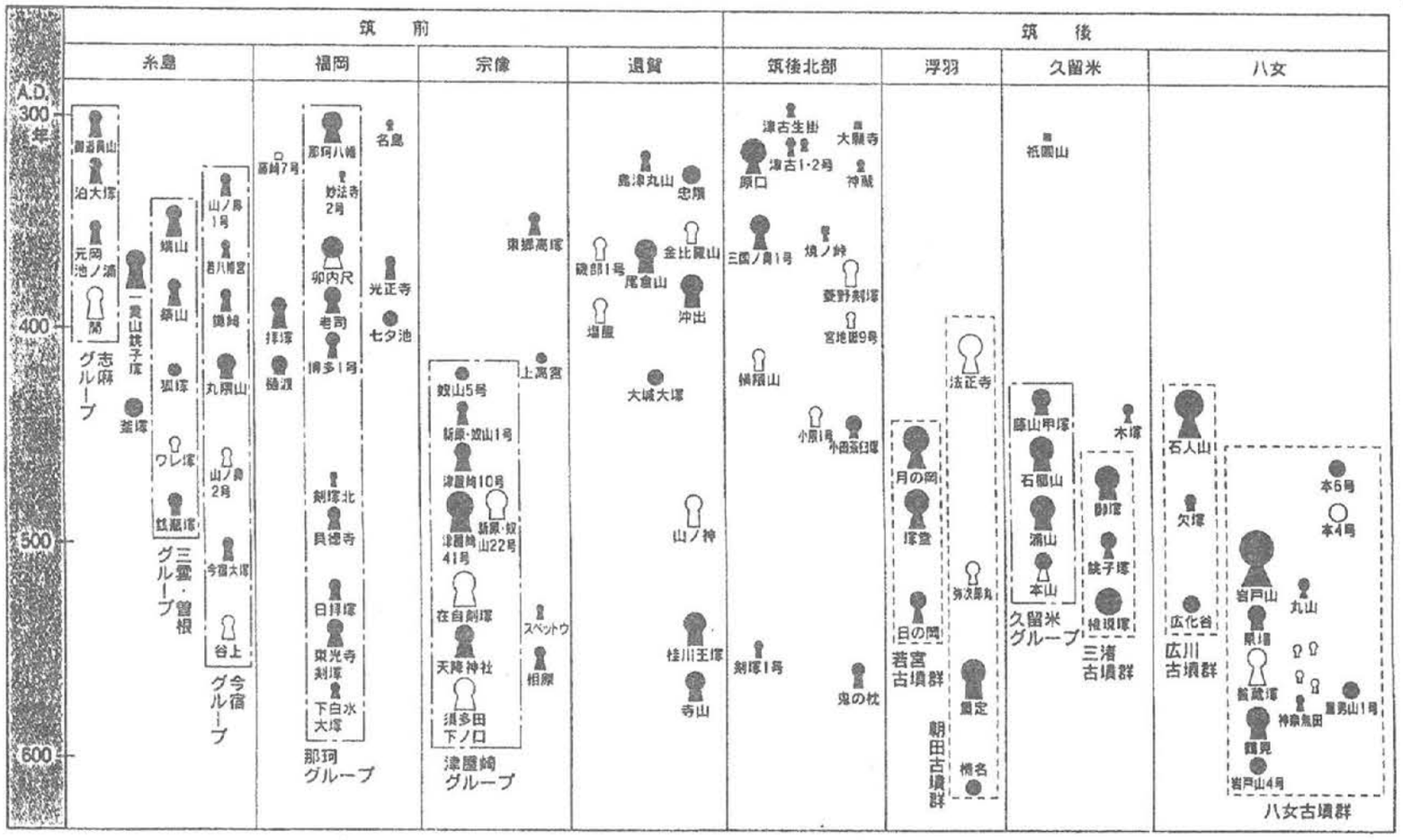



図３　筑紫における大型古墳の編年（柳沢一男氏による）　は編年根拠の弱いもの

0　200m

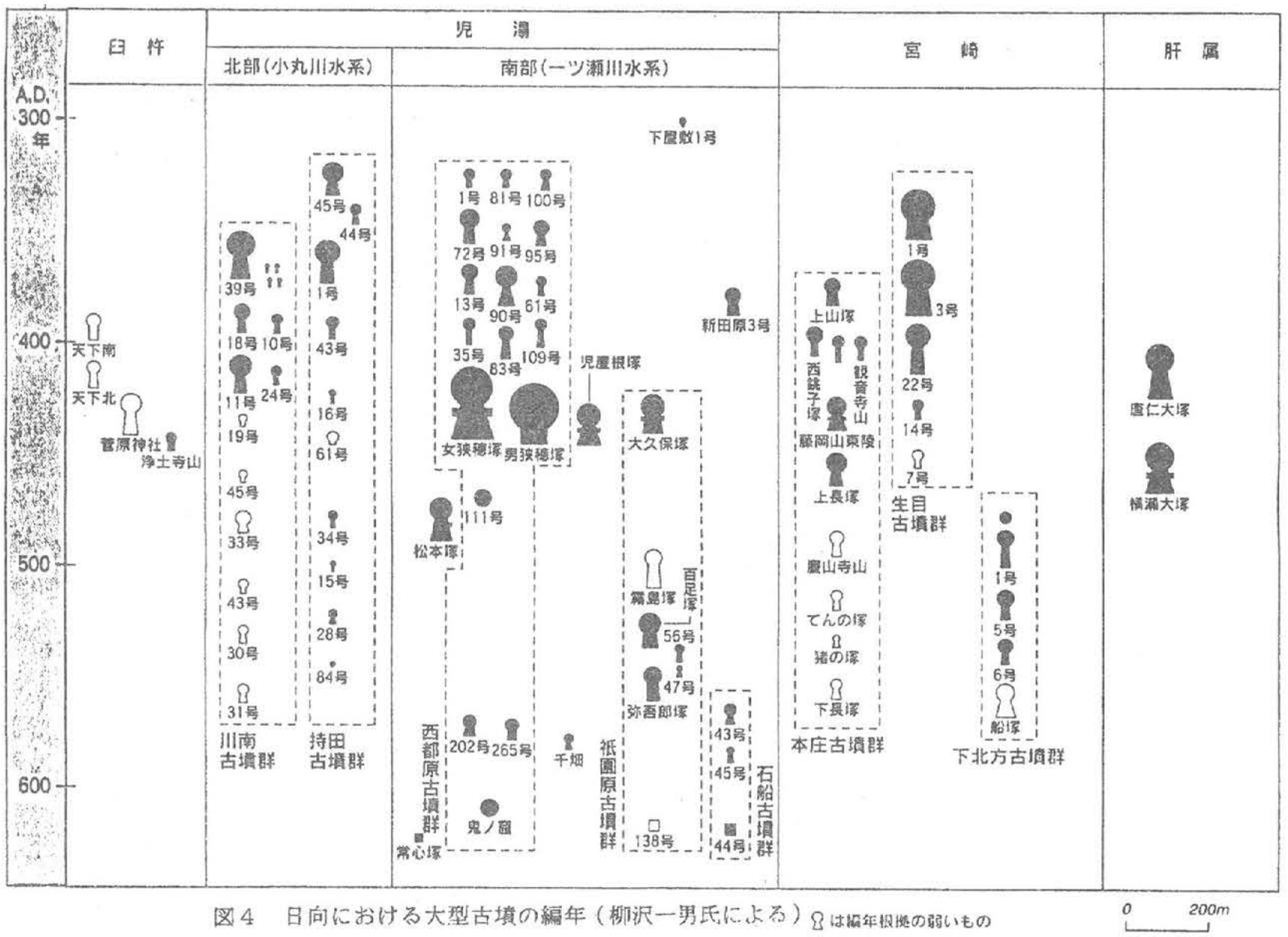



図４　日向における大型古墳の編年（柳沢一男氏による）　は編年根拠の弱いもの

0　200m

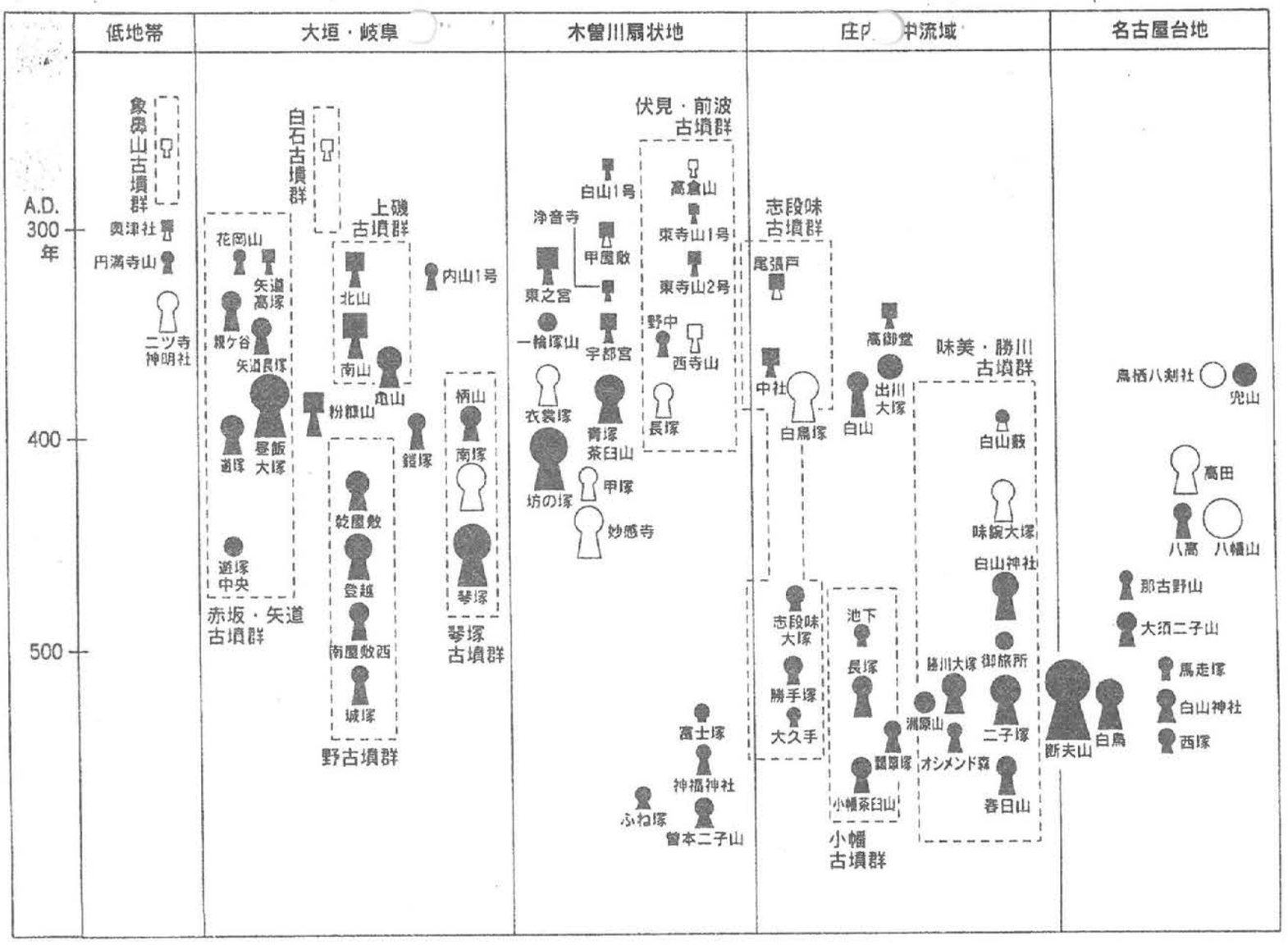



図5　濃尾平野における大型古墳の編年（赤塚次郎氏による）　○は編年根拠の弱いもの

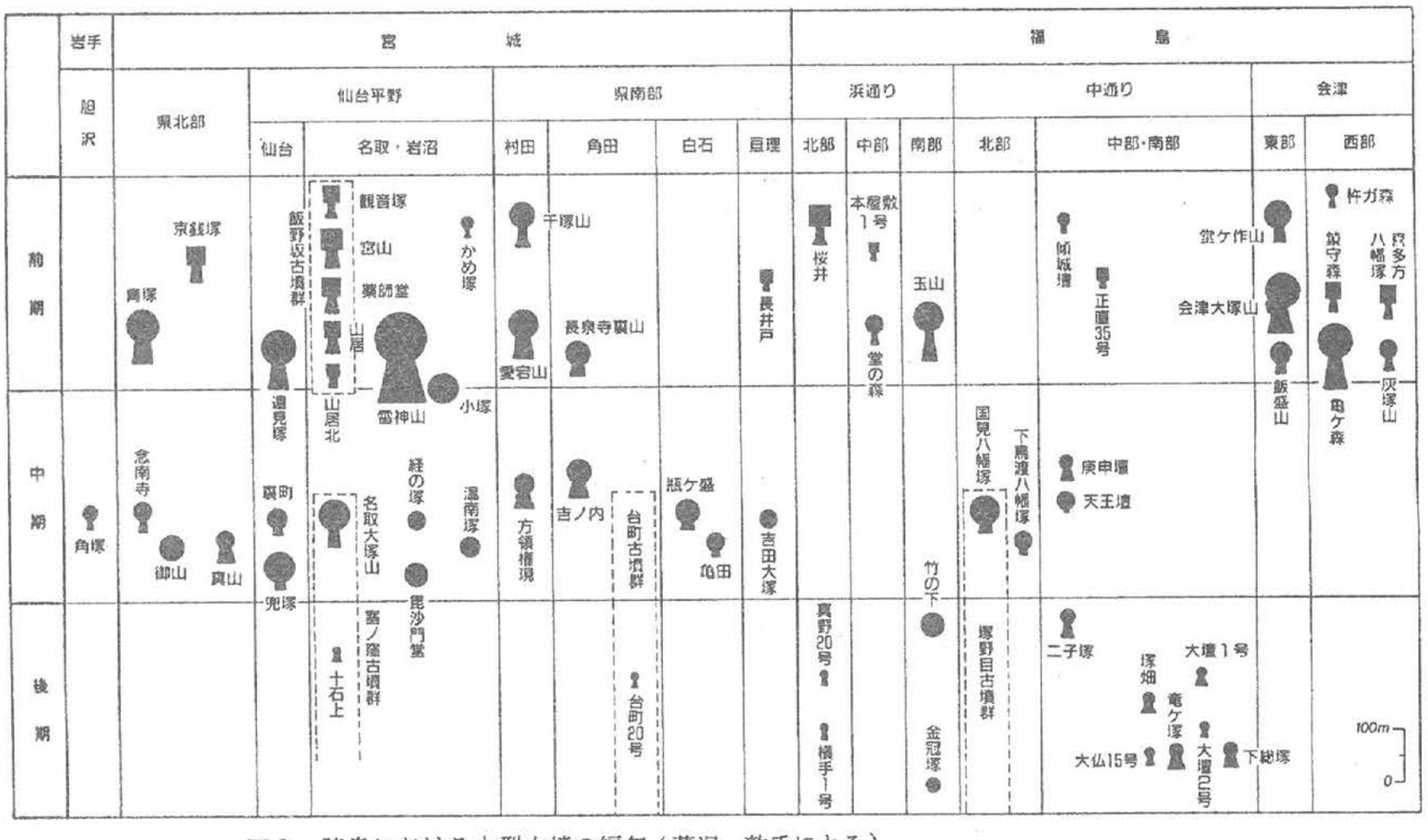



図6　陸奥における大型古墳の編年（藤沢　敦氏による）

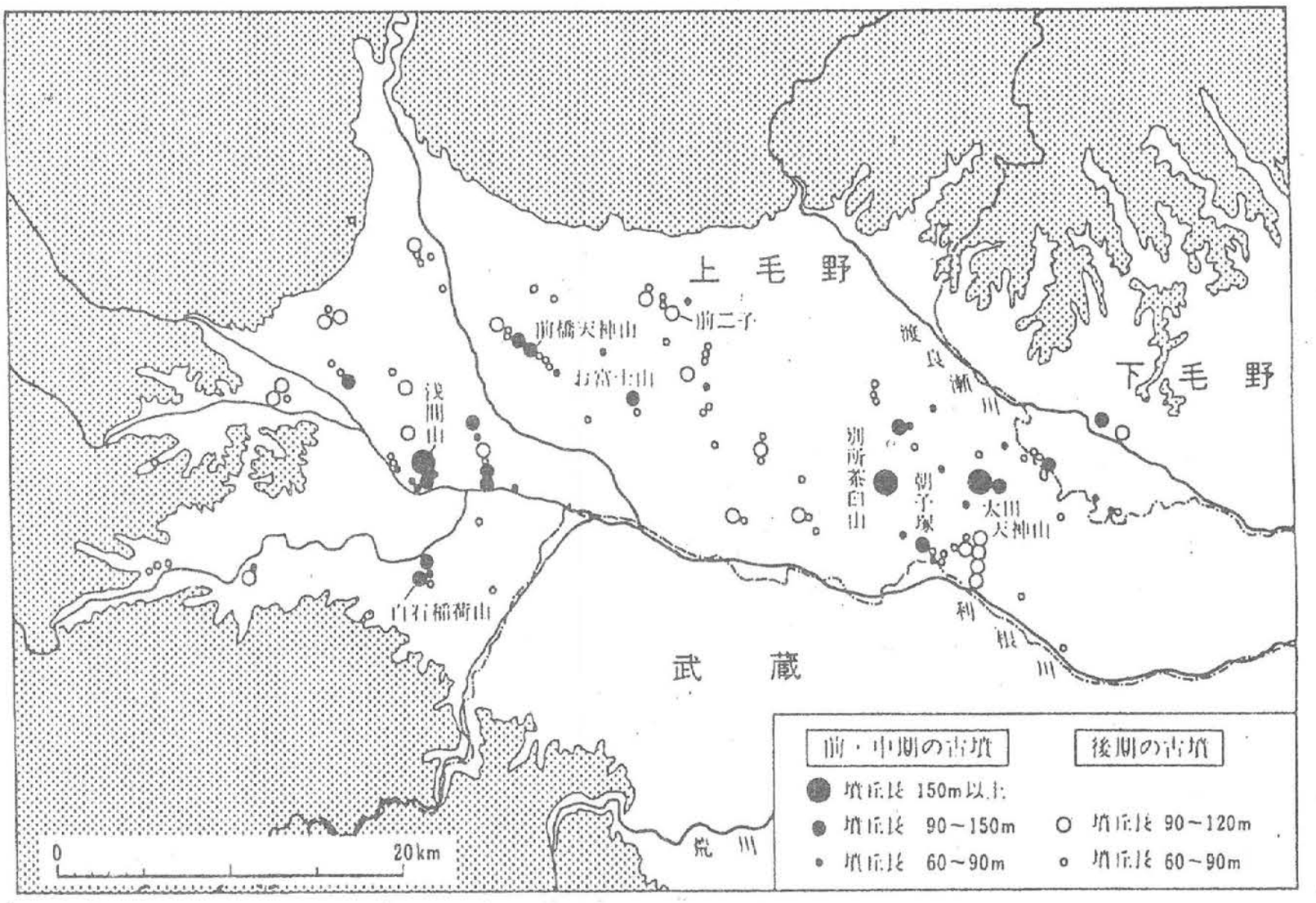



図7　上毛野における大型古墳の分布

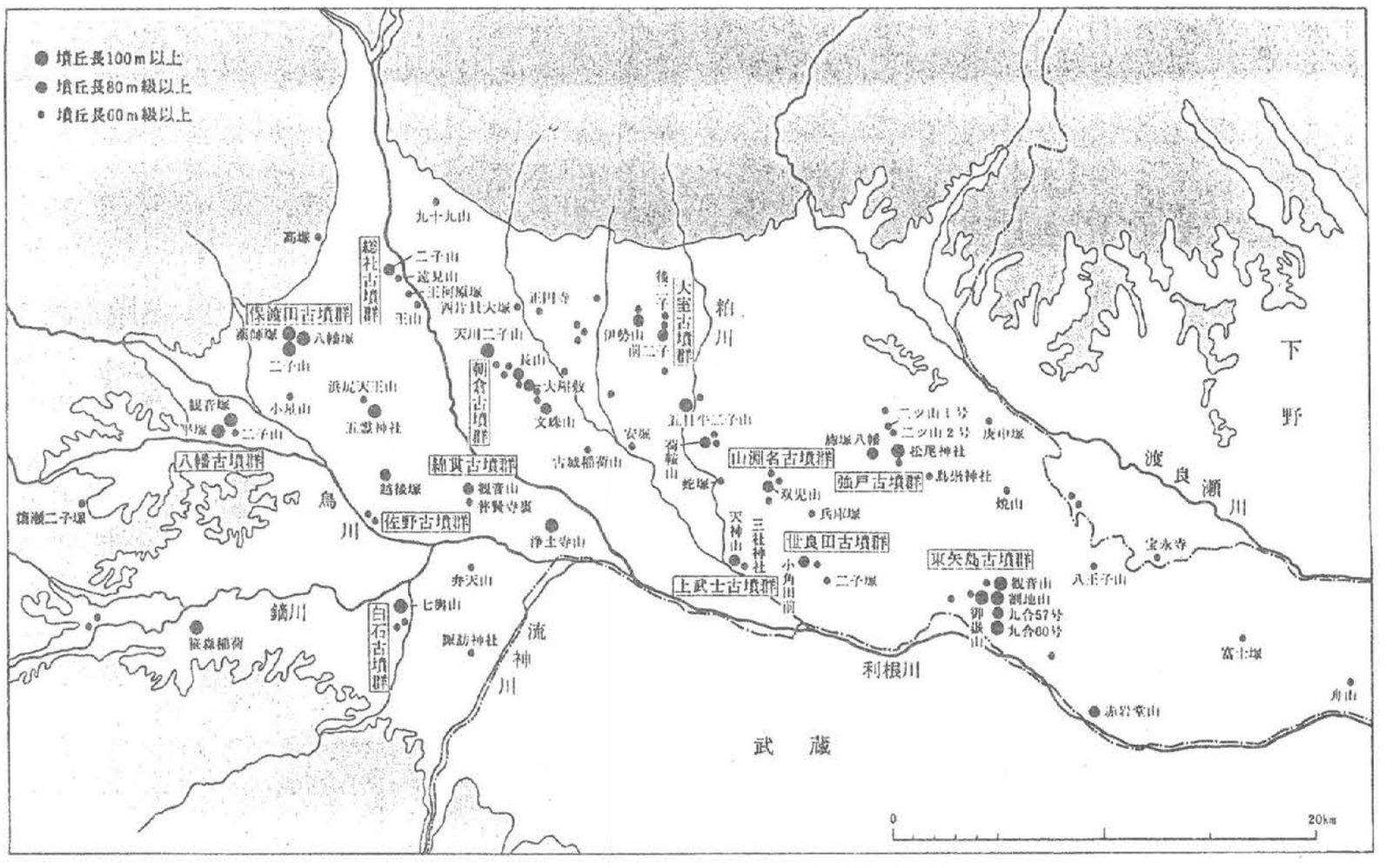



図8　上毛野における後期大型前方後円墳の分布